令和８年度(令和７年度実績事業)

下田市教育委員会自己点検・評価報告書

令和８年 11 月

下田市教育委員会

目　　次

はじめに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

教育委員会点検･評価の概要

1　点検・評価の趣旨　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

2　教育委員会会議の開催状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

3　教育委員会会議の審議状況　・・・・・・・・・・・・・・・・3～6

4　教育委員会会議以外の活動状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・6

5　施策ごとの取組状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・6～8

点検・評価シート　・・・・・・・・・・・・・・・・・9～44

6　有識者委員会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45

7　有識者委員会の意見　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45

8　下田市教育委員会点検評価に関する有識者委員会設置要綱　・・・・・・・51

はじめに

下田市教育委員会の自己点検・評価は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条の規定に基づき、毎年、その権限に属する主要な施策や事務事業について１年間の活動状況の課題や取組の方向性を、自ら点検及び評価を行い、有識者による外部の知見を入れることで、今後の効果的な教育行政の一層の推進を図るものです。

本報告書の作成に当たっては、点検・評価の客観性を確保するために、下田市教育委員会点検評価に関する有識者委員会から点検・評価の内容及び手法に対するご意見をお聞きしました。

この点検・評価の結果を今後の施策に十分に反映させることで、本市の教育施策が適切、円滑に推進できるよう取組の強化を図ってまいります。

下 田 市 教 育 委 員 会

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律　（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条　教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第１項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第３項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

２　教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

下田市教育委員会名簿

（令和７年度当初　在籍委員）

職　　名	氏　　名
教　　育　　長	山　田　　貞　己
教育長職務代理者	佐　藤　　知佐子
委　　員	宮　内　　慎　也
委　　員	西　川　　紀　栄
委　　員	宮　川　　大　輝

教育委員会点検･評価の概要

1　点検・評価の趣旨

（1）　点検・評価の目的

教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号。以下「地教行法」という。）第26条の規定に基づき、毎年事務の管理及び執行状況について、学識経験を有する者の知見の活用を図り、自ら点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に報告するとともに、市民に公表しています。

この自己点検・評価は、教育委員会の責任体制の明確化と教育行政の説明責任を果たすことを目的としています。

（2）　点検・評価の対象

点検・評価にあたっては、令和７年度に実施した事務事業について、令和３年４月から令和８年３月までの５年間を対象期間とする下田市教育大綱で掲げる本市教育の基本理念『下田に誇りをもち、未来を切り拓く志をもった人』を目指し、その実現のための６つの取組である「下田を感じる、味わう、好きになる取組」、「未来について思考する取組」、「居場所づくりに向けた取組」、「資質・能力を育成する取組」、「健やかな心身を育成する取組」及び「教育政策推進のための基盤整備に向けた取組」に分類して、点検・評価の対象としました。

（3）　点検・評価の方法

点検・評価については、施策、事業の執行状況を明らかにするとともに、課題等を分析検討した上で、今後の対応方向を記述しました。

事業は、点検・評価シートに基づき点検・評価を行い、教育委員の評価として

S　確実な成果を出している
A　一定の成果を出している
B　やや成果が低い
C　成果が低い

のいずれかの評価とその評価に基づくコメントを記載しました。

また、点検・評価の客観性の確保のため、教育に関し学識経験を有する方等、外部の意見をお聞きするため、外部評価委員会を開催しました。

2　教育委員会会議の開催状況

教育委員会では、毎月 20 日以降を目処に月１回の定例会を開催する計画を立て、必要に応じて臨時会を開催しています。

令和７年度は、12 回（定例会 12 回）会議を開催しました。

定　例　会	臨　時　会	合　　計
12 回	０回	12 回

3　教育委員会会議の審議状況

地教行法第 21 条及び下田市教育委員会会議規則（平成 27 年下田市教育委員会規則第２号）に基づき、令和７年度は 55 件の議案を審議しました（専決処分を含めると合計 74 件）。

区　　分	番　　号	議　案　名
４月定例会 ４月30日（水）	報第３号	専決処分の承認を求めることについて （下田市文化財保護審議会委員の任命について）
	報第４号	専決処分の承認を求めることについて （社会教育指導員の任命について）
	報第５号	専決処分の承認を求めることについて （下田市立図書館協議会委員の任命について）
	報第６号	専決処分の承認を求めることについて （下田市立青少年の家所長の任命について）
	報第７号	専決処分の承認を求めることについて （下田市青少年補導センター所長の任命について）
	報第８号	専決処分の承認を求めることについて （下田市公民館長の任命について）
	報第９号	専決処分の承認を求めることについて （下田市立図書館長の任命について）
	報第10号	専決処分の承認を求めることについて （下田市学校運営協議会委員の任命について）
	報第11号	専決処分の承認を求めることについて （下田市社会教育委員の委嘱について）
	報第12号	専決処分の承認を求めることについて （下田市青少年補導センター補導員の委嘱について）
	報第13号	専決処分の承認を求めることについて （下田市公民館運営審議会委員の委嘱について）
	報第14号	専決処分の承認を求めることについて （下田市スポーツコミッション委員の委嘱について）
	報第15号	専決処分の承認を求めることについて （下田市地域学校協働活動推進員の委嘱について）
	議第21号	要保護及び準要保護児童生徒の認定について

5月定例会 5月26日（月）	議第22号	市議会の議決を経るべき議案の原案の決定について （令和７年度教育用端末購入に係る契約の締結について）
	議第23号	市議会の議決を経るべき議案の原案の決定について （令和７年度下田市一般会計補正予算（第１号）　教育委員会）
	議第24号	下田市社会教育委員の委嘱について
	議第25号	下田市公民館運営審議会委員の委嘱について
6月定例会 6月30日（月）	報第16号	専決処分の承認を求めることについて （下田市地域学校協働活動推進員設置要綱の一部を改正する告示の制定について）
	報第17号	専決処分の承認を求めることについて （下田市立小学校在り方検討会議設置要綱の一部を改正する告示の制定について）
	報第18号	専決処分の承認を求めることについて （下田市学校運営協議会委員の任命について）
	議第26号	下田市学校給食運営協議会委員の委嘱について
	議第27号	下田市立小中学校ＩＣＴ活用推進会議設置要綱の制定について
	議第28号	要保護及び準要保護児童生徒の認定について
7月定例会 7月29日（火）		議事なし
8月定例会 8月26日（火）	議第29号	市議会の議決を経るべき議案の原案の決定について （下田市立保育所条例を廃止する条例の制定について）
	議第30号	市議会の議決を経るべき議案の原案の決定について （令和７年度下田市一般会計補正予算（第３号）　教育委員会）
	議第31号	下田市教育委員会公印規則の一部を改正する規則の制定について
	議第32号	下田市立保育所条例施行規則を廃止する規則の制定について
9月定例会 9月30日（火）	報第19号	専決処分の承認を求めることについて （下田市教育委員会事務局職員の人事について）
	議第33号	下田市教育委員会点検評価に関する有識者委員会委員の委嘱について
	議第34号	下田市いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱について
10月定例会 10月30日（木）	議第35号	下田市立中学校部活動在り方検討協議会委員の委嘱について
	議第36号	要保護及び準要保護児童生徒の認定について
11月定例会 11月27日（木）	議第37号	市議会の議決を経るべき議案の原案の決定について （下田市民文化会館の指定管理者の指定期間の変更について）
	議第38号	市議会の議決を経るべき議案の原案の決定について （下田市スポーツセンターの指定管理者の指定期間の変更について）
	議第39号	市議会の議決を経るべき議案の原案の決定について （児童福祉法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例の制定について）
	議第40号	市議会の議決を経るべき議案の原案の決定について （下田市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について）

	議第41号	市議会の議決を経るべき議案の原案の決定について （令和７年度下田市一般会計補正予算（第５号）教育委員会）
	議第42号	下田市学校運営協議会委員の任命について
12月定例会 12月24日（水）	報第20号	専決処分を求めることについて （下田市地域学校協働活動推進員の委嘱について）
	報第21号	専決処分を求めることについて （下田市学校運営協議会委員の任命について）
	議第43号	下田市就学援助費支給要綱の一部を改正する告示の制定について
１月定例会 １月28日（水）	議第１号	令和８年度下田市立小・中学校教職員の人事異動の基本方針について
	議第２号	下田市児童・生徒適応指導教室設置要綱の一部を改正する告示の制定について
	議第３号	下田市教育委員会委員の辞職の同意について
２月定例会 ２月24日（火）	議第４号	市議会の議決を経るべき議案の原案の決定について （下田市子ども・子育て会議条例及び下田市附属機関設置条例の一部を改正する条例の制定について）
	議第５号	市議会の議決を経るべき議案の原案の決定について （下田市乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について）
	議第６号	市議会の議決を経るべき議案の原案の決定について （令和７年度下田市一般会計補正予算（第９号）　教育委員会）
	議第７号	市議会の議決を経るべき議案の原案の決定について （令和８年度下田市一般会計予算　教育委員会）
	議第８号	静岡県費負担教職員人事の内申について
３月定例会 ３月26日（木）	議第９号	下田市教育委員会事務局職員の人事異動について
	議第10号	下田市教育委員会職員職名規則の制定について
	議第11号	下田市教育委員会事務決裁規則の制定について
	議第12号	下田市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則の制定について
	議第13号	社会教育指導員設置規則の一部を改正する規則の制定について
	議第14号	職務に専念する義務の免除に関する規則の一部を改正する規則の制定について
	議第15号	下田市民文化会館条例施行規則の一部を改正する規則の制定について
	議第16号	下田市立学校等再編整備審議会規則の一部を改正する規則の制定について
	議第17号	下田市立学校管理規則の一部を改正する規則の制定について
	議第18号	下田市学校給食費に関する規則の一部を改正する規則の制定について
	議第19号	下田市高等学校等通学費補助金交付要綱の制定について
	議第20号	下田市文化・スポーツ指導者養成費補助金交付要綱の制定について
	議第21号	下田市文化イベント等開催支援補助金交付要綱の制定について
	議第22号	下田市スポーツ大会等出場費補助金交付要綱の制定について
	議第23号	下田市放課後子どもプラン運営委員会設置要綱の廃止について
	議第24号	下田市ファミリーサポートセンター事業実施要綱の廃止について
	議第25号	下田市いじめ問題対策連絡協議会運営要綱の一部を改正する告示の制定について
	議第26号	下田市立小学校在り方検討会議設置要綱の廃止について

	議第27号	下田市立学校処務規程の一部を改正する訓令の制定について
	議第28号	下田市立学校出勤簿整理要領の一部を改正する訓令の制定について
	議第29号	下田市学校教育の基本方針について
	議第30号	下田市生涯学習の基本方針について
	議第31号	下田市立小中学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画について
	議第32号	要保護及び準要保護児童生徒の認定について

○議案審議の内訳

内　　容	件　数
基本方針	3件
議案の原案の決定	13件
規則及び規程等の制定又は改廃	26件
人事	26件
要保護及び準要保護児童生徒の認定	4件
その他	2件
合　　計	74件

4　教育委員会会議以外の活動状況

（1）　教育委員会点検評価有識者委員会

開　催　日	場　　所
令和7年11月27日（木）	下田市立中央公民館　大会議室

（2）下田市総合教育会議

開　催　日	場　　所
令和7年9月30日（火）	下田市立中央公民館　大会議室
令和8年1月28日（木）	下田市立中央公民館　大会議室
令和8年3月26日（木）	下田市立中央公民館　大会議室

（3）その他

開　催　日	内　容
令和7年4月8日（火）	市内小中学校入学式
令和7年10月30日（木）	教育委員学校訪問
令和8年2月24日（火）	下田市教育委員会教育奨励賞授与式

5　施策ごとの取組状況

教育委員会では、目標を実現させるための取組に対応する事業について点検・評価シートを作成し、内部で点検・評価を行い、その後外部評価をいただき、意見をまとめました。

◇下田を感じる、味わう、好きになる取組

目標実現のための取組		事　業　等	Page
「自然、歴史、文化をフィールドとした体験を通して豊かな感性を育み、表現力を磨きます	下田の豊かな自然（海、山、川、ジオ）を体験する活動を通して学びます	体験プログラム事業	9
		青少年健全育成事業	10
	下田の豊かな資源（文化、歴史、伝統）の探究を通して学びます	成人活動推進事業 公民館活動推進事業	11
		芸術文化振興事業	12
		市史編さん事業 芸術文化振興事業	13
	開国のまちの特色を生かして国際的なコミュニケーション能力を身に付けます	英語力向上推進プロジェクト事業 英語検定受検推進事業 ＡＬＴ（外国語指導助手）配置	14

◇未来について思考する取組

目標実現のための取組		事　業　等	Page
自分の将来や地域の未来について思考する素地を養います	夢を思い描き、自分の生き方や下田の未来について考え、アクションを起こします	未来の下田創造プロジェクト 小学校の在り方検討会議	15
		青少年活動推進事業	16
	下田内外の職場や働く人の生き方から学びます	地域人材活用 総合的な学習の時間	17

◇居場所づくりに向けた取組

目標実現のための取組		事　業　等	Page
安心して自分の資質・能力を発揮し伸ばすことができる環境づくりに取り組みます	自分の居場所であると感じられる学校・地域を目指します	児童生徒適応指導事業 特別支援教育体制推進事業	18
		児童・生徒援護事業	19
		不登校等対策連絡協議会 いじめ防止への対応 生徒指導研修会 人権教育	20
		学校公開・学校評価	21
		青少年健全育成事業	22
		しずおか寺子屋 in 下田	23
	命を大切にし、安全かつ安心して生活できる環境づくりを目指します	通学路安全対策事業	24
		児童・生徒通学費補助事業 中学生自転車安全対策	25
	防災教育を通して、命を守るために自ら考え、人のためにも行動できる人を目指します	地域と連携した防災・防犯教育	26

◇資質・能力を育成する取組

目標実現のための取組		事　業　等	Page
自分や地域の未来を切り拓くことができる資質・能力を伸ばします	実際の社会や生活で生きて働く知識や技能を身に付けます 未知の状況にも対応できる、思考力、判断力、表現力などを身に付けます 学んだことを人生や社会に生かそうとする力を身に付けます	市指定研究校への支援 研修主任研修の開催 校内研修への支援	27
		教育資金利子補給事業 奨学奨励費交付事業	28
		授業づくり支援 初任者研修会の開催	29

◇健やかな心身を育成する取組

目標実現のための取組		事　業　等	Page
生涯を通じて充実した人生を送るために、健やかな心身と豊かな感性を育みます	健やかな心身を支える健康な体づくりを目指します	小中学校児童生徒対外派遣費補助金 部活動指導員配置事業	30
		学校給食管理運営事業	31
		学校体育施設開放事業 スポーツ推進事業	32
		下田市民スポーツセンター管理運営事業 吉佐美運動公園管理運営事業	33
		スポーツ推進事業	34
	道徳教育や読書活動の充実を図り豊かな心の育成を目指します	道徳教育の充実	35
		学校司書の配置・新刊図書の購入 学校図書館蔵書管理システム導入の拡大	36
		図書館管理運営事業	37

◆教育政策推進のための基盤整備に向けた取組

目標実現のための取組		事　業　等	Page
５つの取組を推進するために教育環境の基盤整備に取り組みます	人材育成に向けた学びの機会や質を保障する教育予算の拡充	小・中学校管理事業	38
	ＩＣＴ、ネット環境に関する基盤整備	ＧＩＧＡスクール構想の推進 小・中学校教育振興事業 賀茂地域校務事務共同化協議会	39
	子どもの安心安全の確保と、多様なニーズに対応するセーフティーネットの構築	スクールソーシャルワーカー・スクールカウンセラーの配置、関係機関との連携	40
	生涯にわたって学び続けることができる施設・環境の整備	青少年海の家管理運営事業	41
		下田市民文化会館管理運営事業	42
		公民館管理運営事業	43
		図書館管理運営事業	44

令和８年度　下田市教育委員会の点検・評価シート（令和７年度事業）

1　施策体系・事業等

施策体系	取組１　下田を感じる、味わう、好きになる取組		
	◇自然､歴史､文化をフィールドとした体験を通して豊かな感性を育み、表現力を磨きます	○下田の豊かな自然（海、山、川、ジオ）を体験する活動を通して学びます	
事業等	体験プログラム事業	担当	学校教育課

2　事業概要・評価等

事業概要（具体的施策）	【グローカルＣＩＴＹプロジェクト事業補助金：3,838,136 円】

稲梓小	稲作体験、海の宿泊体験、鮎の友釣り体験、ウナギもじり体験、椎茸菌打ち体験、お飾り作り、寿司体験　等
稲生沢小	下田海中水族館見学、シーカヤック体験、陶芸体験、町探検（サスケハナ号、寝姿山)、木工体験、フォトフレーム作り　等
白浜小	サーフィン教室､下田歴史学習､バスや電車に乗ろう､陶芸体験、下田をたのしもう、黒船交流会　等
浜崎小	浜崎自慢調査（干物作り・ところてん作り)、地層見学、陶芸体験、アメリカ合衆国について知ろう（留学体験を聞く）　等
下田小	伊豆下田ジオサイト巡り、市庁舎見学、シーカヤック体験、魚釣り、海から下田を見てみよう　等
大賀茂小	稲作体験、お飾り作り、シーカヤック体験、まち探検、ジオ学習、パン作り、感謝の会（地域の方へ伝える）　等
朝日小	季節を楽しもう（寝姿山探検)、作ってみよう（梅ジュース、紅型染)、ジオ学習　等
下田中	ドリームマップ作り、地域体験学習、浴衣着付け体験、職人さんから学ぶものづくり体験、職場体験、お別れ遠足、アイデア・企画の作り方を学ぶ　等

検証	下田の豊かな自然、歴史、文化を感じることにより、下田を好きになる取組として、体験プログラム事業を実施した。様々な体験を通じて下田のよさを新たに発見し、学校の枠を超えた人々との関わりの中で親睦を深めながら、児童生徒一人ひとりの豊かな感性を育むことにつながった。各校が地域の特性を生かした体験事業を展開し、児童生徒の郷土への理解促進、郷土愛の育成にもつなげた。 全校合計で 86 回の事業を実施した。
今後の課題方向性	教育大綱に位置付ける重要な取組として、地域の特色を生かした体験活動の充実を図るとともに、活動を支える地域人材の育成にもつなげていく。
教育委員会評価	[S　確実な成果を出している]　A　一定の成果を出している B　やや成果が低い　C　成果が低い
評価に対するコメント	地域の方々との交流を大切にしながら、下田の豊かな自然、歴史、文化等に触れる体験学習やキャリア教育を充実させている。児童生徒が地域の魅力を実感するとともに郷土への愛着を一層深め、自らの将来を考える機会となってほしい。

令和８年度　下田市教育委員会の点検・評価シート（令和７年度事業）

１　施策体系・事業等

施策体系	取組１　下田を感じる、味わう、好きになる取組		
	◇自然、歴史、文化をフィールドとした体験を通して豊かな感性を育み、表現力を磨きます	○下田の豊かな自然（海、山、川、ジオ）を体験する活動を通して学びます	
事業等	青少年健全育成事業	担当	生涯学習課

２　事業概要・評価等

事業概要（具体的施策）

【講座開催状況】

開催日	講座名	参加者
７月13日（日）	海の安全教室	16名
８月９日（土）	親子漁船釣り教室	29名
11月22日（土）	東京大学樹芸研究所講座 ～チョコレートづくりを体験しよう！～	14名

検証

身近にある恵まれた自然環境と地域の特性を活かした体験的な講座として、海の安全教室、漁船釣り教室、チョコレートづくり教室の三教室を開催した。

今後の課題方向性

自然体験活動については、観光協会等他団体が実施する事業との差別化を図るとともに、単発的なイベントではなく、年間を通じたテーマ性のある講座開設を検討する。

教育委員会評価

S　確実な成果を出している　　A　一定の成果を出している

B　やや成果が低い　　C　成果が低い

評価に対するコメント

今後も、下田の自然環境を活かした体験活動の充実を推進してほしい。

令和８年度　下田市教育委員会の点検・評価シート（令和７年度事業）

1　施策体系・事業等

施策体系	取組１　下田を感じる、味わう、好きになる取組		
	◇自然､歴史､文化をフィールドとした体験を通して豊かな感性を育み、表現力を磨きます	○下田の豊かな資源（文化、歴史、伝統）の探求を通して学びます	
事業等	成人活動推進事業 公民館活動推進事業	担当	生涯学習課

2　事業概要・評価等

事業概要（具体的施策）

【各種学級の開設】

名称	対象	延人員	内容
寿大学	高齢者	439	教養講座、健康講座、安全講座（10回）
家庭教育学級	保護者	896	８学級、親の役割と青少年の育成等
水産・海洋学講座	中学生以上	109	県･大学の研究機関等による市民講座（４回）

・家庭教育学級委託　125千円

【公民館講座】

開催日	講座名	対象	参加者	内容
９月 10 日（水）	親子和菓子作り教室	小学生と保護者	22	和菓子作り

・公民館講座講師謝礼 56千円

検証

高齢者を対象とした寿大学（10 回実施）を開設した。寿大学は高齢者の交流の場としても機能しており、楽しみにされている方も多い。

小中学校ＰＴＡに家庭教育学級の実施を委託し、各学校ごとの課題に対応した事業が実施され、家庭教育力の向上につなげた。また、各学級の代表者を対象とした研修会を開催し、各学級の事業が充実するように努めた。

水産海洋学講座は、市内研究機関等を講師に招き、幅広い世代に対し、市の財産である海の知識を学ぶ機会を創出した。

公民館講座は、地域資源を活かした講座を企画し、子どもたちをメインに、市民の生涯学習活動の推進につながっている。

今後の課題方向性

寿大学については、参加者の減少や固定化が課題となっており、今後は高齢者に限定した寿大学ではなく、幅広い年代の市民が、教養を深めることができる定期的な講座の開設を検討していく。

公民館講座については、大学との連携、民間企業の教育活動を活用し、講座の充実を図る。

教育委員会評価

Ｓ　確実な成果を出している　　Ａ　一定の成果を出している

Ｂ　やや成果が低い　　Ｃ　成果が低い

評価に対するコメント

継続して受講する高齢者が多い講座は、楽しみや健康にもつながるような内容の充実を図り、幅広い世代を対象とした、下田の魅力を再発見できるような新たな事業を検討し、生涯学習の場の充実を図ってもらいたい。

令和８年度　下田市教育委員会の点検・評価シート（令和７年度事業）

1　施策体系・事業等

施策体系	取組１　下田を感じる、味わう、好きになる取組		
	◇自然､歴史､文化をフィールドとした体験を通して豊かな感性を育み、表現力を磨きます	○下田の豊かな資源（文化、歴史、伝統）の探求を通して学びます	
事業等	芸術文化振興事業	担当	生涯学習課

2　事業概要・評価等

事業概要（具体的施策）

【芸術祭開催状況】

事業	内容
第70回 下田市芸術祭	会　　期：前期　11月７日～９日　後期　11月14日～16日 会　　場：下田市民文化会館 展示部門出展数：111点 舞台部門団体数：25 入場者数：1,608名

【教育委員会連続講座「南豆の歴史を後世に」開催状況】

開催日	演題	講師	参加者数
11月18日（火）	賀茂郡の古代史を考古学の立場から再検討する	外岡　龍二	32名
12月２日（火）	人が作った木彫を聖なるみほとけにする方法～伊豆の事例を中心に～	田島　整	37名
12月10日（水）	地震津波災害の歴史と伊豆下田	金子　浩之	39名
12月16日（火）	南豆における戦時体制の確立過程について	高橋　廣明	37名

検証

芸術文化活動の活性化を図るため、活動団体への支援を行った。その発表の場となる芸術祭について、展示部門・舞台部門を開催した。

南伊豆地域、特に下田に関する歴史を再認識し、地元研究者を中心とした専門性の高い講座内容を提供することで、市民の余暇活動の充実を図った。

今後の課題方向性

今後は、芸術祭をはじめとする、市民による文化・芸術活動への支援を強化し、若い世代にも活動が広がるように努めたい。

教育委員会評価

S　確実な成果を出している　　A　一定の成果を出している

B　やや成果が低い　　C　成果が低い

評価に対するコメント

市民の活動への支援を通じて、芸術・文化の振興を図ってもらいたい。また、その発表の場となる芸術祭の参加者数を増やすような取組を期待したい。

令和８年度　下田市教育委員会の点検・評価シート（令和７年度事業）

1　施策体系・事業等

施策体系	取組１　下田を感じる、味わう、好きになる取組		
	◇自然、歴史、文化をフィールドとした体験を通して豊かな感性を育み、表現力を磨きます	○下田の豊かな資源（文化、歴史、伝統）の探求を通して学びます	
事業等	市史編さん事業 芸術文化振興事業	担当	生涯学習課

2　事業概要・評価等

事業概要（具体的施策）

【市史編さん】

令和７年度は、『下田市史通史編・上（原始・古代・中世）』の編集作業が完了し、令和８年度までの２か年の債務負担行為として、松本印刷(株)と印刷製本業務委託契約を締結した。

【吉田松陰寓寄処】

県指定文化財である吉田松陰寓寄処を保全・管理し、一般開放を行った。

入場者数			入場料収入
一般	小中学生	計	
1,647	110	1,757	169,025

検証

市史については、印刷業者との契約を締結し、通史編・上の刊行の目途を付けることができた。

吉田松陰寓寄処については、支障木の伐採や竹垣の修繕等を行い、適切な管理に努めた。

今後の課題方向性

市史編さんについては、今後、近代・現代の資料編及び通史編・下（近世・近代・現代）の早期刊行を目指す。

吉田松陰寓寄処については、特別講演会の開催や、入場者記念品の作成等の各種施策に取り組み、入場者及び入場料の確保に努める。

市内文化財については、令和７年度における補修等の必要はなかったが、今後も定期的な見回り等を通じて、実態の把握に努めていく。

教育委員会評価

S　確実な成果を出している　　**A　一定の成果を出している**

B　やや成果が低い　　C　成果が低い

評価に対するコメント

引き続き市史の早期刊行に努めるとともに、吉田松陰寓寄処及び市内文化財を計画的に維持管理し、より多くの市民、来訪者に対し、下田の歴史の魅力を発信できるよう、積極的な活用を図ってもらいたい。

令和８年度　下田市教育委員会の点検・評価シート（令和７年度事業）

1　施策体系・事業等

施策体系	取組１　下田を感じる、味わう、好きになる取組		
	◇自然、歴史、文化をフィールドとした体験を通して豊かな感性を育み、表現力を磨きます	○開国のまちの特色を生かして国際的なコミュニケーション能力を身に付けます	
事業等	英語力向上推進プロジェクト事業 英語検定受検推進事業 ＡＬＴ（外国語指導助手）配置	担当	学校教育課

2　事業概要・評価等

事業概要（具体的施策）

【英語力向上プロジェクト事業：935,000 円】

玉川大学との連携事業として、学生を招き小学校において英語の授業を実施

玉川大学講義等の視察

春の交流：稲生沢小　秋の交流：白浜小、浜崎小

【英語検定受検推進事業：943,700 円】

児童 65 人、生徒 161 人、計 226 人に英語検定受検料を全額補助

＜補助内訳＞　　（　）は合格者数　（単位：人）

受検級	児童受検者		生徒受検者		受検者計	
	Ｒ６	Ｒ７	Ｒ６	Ｒ７	Ｒ６	Ｒ７
１級	0	0	0（0）	1（1）	0（0）	1（1）
準１級	0	0	2（1）	2（1）	2（1）	2（1）
２級	1（1）	1（0）	7（2）	9（1）	8（3）	10（1）
準２級プラス	0	0	0	2（2）	0	2（2）
準２級	0	1（0）	41(21)	29（8）	41(21)	30（8）
３級	1（1）	5（3）	99(67)	64(38)	100(68)	69(41)
４級	16(14)	14(10)	71(59)	37(21)	87(73)	51(31)
５級	31(23)	44(37)	33(30)	17(13)	64(53)	61(50)
計	49(39)	65(50)	253(180)	161(85)	302(219)	226(135)

【中学校ＡＬＴ・小学校外国語活動社会人活用：4,935 千円】

小中学校８校全てに指導助手（地域の社会人活用）及びＡＬＴを６名配置

検証

英語力向上プロジェクト事業では、玉川大学学生による授業交流を行い、子どもたちの英語への興味関心とコミュニケーション能力の育成を図った。また、玉川大学で行われる講義等の視察では、外国語の授業等について研修を深めた。

英語検定受検推進事業は、英語検定を通じて英語力を伸ばす一助となった。

中学校ＡＬＴの配置では、専門性を活かした指導の充実を図った。

今後の課題方向性

英語教育の充実とグローバルな視点を持つ子どもの育成を進めたい。英語検定受検推進事業は、受検者数が昨年より約３割減少しているが、原因を分析するとともに引き続き事業を推進する。

教育委員会評価

Ｓ　確実な成果を出している　　[Ａ　一定の成果を出している]

Ｂ　やや成果が低い　　Ｃ　成果が低い

評価に対するコメント

受検の促進にも取り組みながら、児童生徒の英語力や国際的な視野を育む取組として充実させてほしい。

令和８年度　下田市教育委員会の点検・評価シート（令和７年度事業）

１　施策体系・事業等

施策体系	取組２　未来について思考する取組		
	◇自分の将来や地域の未来について思考する素地を養います	○夢を思い描き、自分の生き方や下田の未来について考え、アクションを起こします	
事業等	未来の下田創造プロジェクト 小学校在り方検討会議	担当	学校教育課

２　事業概要・評価等

事業概要（具体的施策）	【未来の下田創造プロジェクト】 ・第24回　令和７年８月１日（金）　下田中学校　音楽室 『20年後に35歳になる大人に必要な資質・能力、それを育むために必要な経験とは』 ・第25回　令和７年11月28日（金）　下田中学校　音楽室 『未来の下田を担う人材を育成する新たな○○づくり』 【小学校在り方検討会議】（第１回は令和６年度に開催） ・第２回検討会議　令和７年７月１日（火）　道の駅開国下田みなと ・第３回検討会議　令和７年９月３日（水）　下田市民文化会館 ・第４回検討会議　令和７年12月16日（火）　道の駅開国下田みなと ・第５回検討会議　令和８年２月17日（火）　下田中学校
検証	未来の下田創造プロジェクトは年度内に２回開催し、「未来の地域を担う人材を育成する」という視点から、小・中・高等学校の教職員、地域、行政職員等が、異なる立場でディスカッションを行い、将来の地域づくりを担う人材を育成するための新たなアイデアの創出を図った。 小学校在り方検討会議は、下田市立小学校の今後の在り方について幅広く意見を聴くことを目的とし、校長、ＰＴＡ会長、地域代表の方々と市内小学校の今後の在り方について意見交換を行った。小学校を取り巻く現状について共有した上で、小学校統合と存続、それぞれのメリット・デメリットについて考え、今後の魅力的な小学校の在り方について議論した。会議で出された多様な意見は、今後、小学校の在り方や魅力化を検討する際の特に留意すべき視点や考え方として「提言書」に取りまとめた。
今後の課題方向性	未来の下田創造プロジェクトは、未来の下田を担う人材を育成する新しい学校づくりを目指す議論の場として、今後も継続する。 下田市立小学校在り方検討会議は、提言書の取りまとめにより、その役割を終えたため、令和８年度より新たに「下田市立小学校魅力化検討会議」を設置し、提言書に基づく具体的施策の検討を進めていく。
教育委員会評価	[S　確実な成果を出している]　　A　一定の成果を出している B　やや成果が低い　　C　成果が低い
評価に対するコメント	多様な立場から幅広い意見が出され、今後の本市の教育の在り方について活発な議論が行われている。こうした意見が教育大綱等の指針や計画に反映されることで、実効性のある教育施策につながることを期待したい。

令和８年度　下田市教育委員会の点検・評価シート（令和７年度事業）

１　施策体系・事業等

施策体系	取組２　未来について思考する取組		
	◇自分の将来や地域の未来について思考する素地を養います	○夢を思い描き、自分の生き方や下田の未来について考え、アクションを起こします	
事業等	青少年活動推進事業	担当	生涯学習課

２　事業概要・評価等

事業概要（具体的施策）	【二十歳の集い(旧成人式)】 開催日：令和８年１月 11 日(日)　　会　場：下田市民文化会館　大ホール 参加者：149 人(男性 72 人、女性 77 人) 内容等：オープニング(下田太鼓伝統保存会) 国歌斉唱、開式、式辞、二十歳の宣言、祝辞、二十歳の誓い 恩師メッセージ、閉式
検証	二十歳を迎えた参加者が、総合司会を行ったほか、「二十歳の宣言」や「二十歳の誓い」を述べる等、積極的に式に参加した。 「二十歳の誓い」では、参加者が二十歳を迎えての決意と抱負についてスピーチを行った。 出席できなかった参加予定者や家族のために、式典の模様を YouTube でも配信(限定配信)した。
今後の課題方向性	引き続き、対象者が主体性を持って参加できる式典を目指していく。
教育委員会評価	S　確実な成果を出している　　A　一定の成果を出している B　やや成果が低い　　C　成果が低い
評価に対するコメント	「二十歳の集い」として、対象者の意向も把握しながら式の内容を検討してほしい。二十歳を迎える成年が改めて大人としての責任を自覚できるよう、地域全体で門出をお祝いする式を実施してほしい。

令和８年度　下田市教育委員会の点検・評価シート（令和７年度事業）

1　施策体系・事業等

施策体系	取組２　未来について思考する取組		
	◇自分の将来や地域の未来について思考する素地を養います	○下田内外の職場や働く人の生き方から学びます	
事業等	地域人材活用 総合的な学習の時間	担当	学校教育課

2　事業概要・評価等

事業概要（具体的施策）	【総合的な学習の時間等における地域の人材活用】（学校運営協議会が橋渡し） ・地元農家と連携した農業体験 （稲梓小、大賀茂小：稲作体験、　稲梓小、下田小：いちご狩り　他） ・地域の魅力を知り、伝える学習　※ジオ、史跡等 （浜崎小、下田小、大賀茂小、朝日小：ジオ学習、白浜小：下田歴史学習　他） ・地元漁業者に指導を受ける漁師まちならではの体験 （浜崎小：ひもの作り体験、下田小：魚釣り体験　他） ・地元インストラクターと連携したマリンアクティビティ体験 （白浜小：サーフィン教室、下田小、大賀茂小、稲生沢小：シーカヤック　他） ・コミュニティスクール活動と連携した協働活動 （下田中学校：職業講話、キャリア座談会）
検証	総合的な学習の時間において、地域の特色や人材を生かした体験的な学習を実施することができた。地域住民からも多くの協力を得ることができ、児童生徒が地域の歴史、文化、産業等について実際に見たり、聞いたり、体験したりする機会が充実した。 また、学校運営協議会委員が、地域と学校をつなぐ橋渡し役を担い、地域人材の発掘や学校との調整を行っている。地域と協働で学校運営を行う学校運営協議会の取組は、令和５年度に下田中学校で運用をスタートし、令和６年度には市内７小学校に展開した。令和７年度は 45 名の委員を委嘱し、各校で合計 20 回の協議会を開催している。
今後の課題方向性	引き続き、学校運営協議会を中心に地域と学校との連携を一層深め、総合的な学習活動時間の充実を図る。特に、これまでの取組で築いた地域人材とのつながりを継続するとともに、新たな人材や資源の掘り起こしを進めたい。 学校の教育活動に地域の力を取り入れる仕組みを定着させ、地域全体で子どもたちの学びと成長を支える環境づくりを進める。
教育委員会評価	S　確実な成果を出している　　A　一定の成果を出している B　やや成果が低い　　C　成果が低い
評価に対するコメント	地域の方々が実際の体験や知識を伝えることで、児童生徒の地域への理解や関心を深めるとともに、学校だけでは実現が難しい体験的な学習につながっている。これまで築いてきた地域とのつながりを一過性とせず、地域人材や地域資源を継続的に活用できる仕組みとして蓄積していくことが重要である。

令和８年度　下田市教育委員会の点検・評価シート（令和７年度事業）

1　施策体系・事業等

施策体系	取組３　居場所づくりに向けた取組		
	◇安心して自分の資質・能力を発揮し伸ばすことができる環境づくりに取り組みます	○自分の居場所であると感じられる学校・地域を目指します	
事業等	児童生徒適応指導事業 特別支援教育体制推進事業	担当	学校教育課

2　事業概要・評価等

事業概要（具体的施策）	【支援員等の効果的な配置：会計年度任用職員報酬 32,417 千円】 ・特別支援教育支援員 25 人 【市巡回相談等の実施：謝礼 601 千円】 ・特別支援教育相談員（臨床心理士）による巡回相談（年 22 回実施） ・市就学支援委員会専門部会による幼保こども園の訪問 ・特別支援教育相談員（臨床心理士）によるＷＩＳＣⅣ検査（年 16 名実施） 【幼児ことばの教室及び適応指導教室の運営:会計年度任用職員報酬 2,723 千円】 ・幼児ことばの教室指導員１人、適応指導教室指導員３人
検証	合理的配慮を必要とする児童生徒や発達面、学校生活面で支援を必要とする児童生徒に対し、特別支援教育支援員25人を配置するとともに、特別支援教育相談員による巡回相談を年22回実施するなど、個々の状況に応じた支援を行った。また、ＷＩＳＣⅣ検査や就学相談を実施し、児童生徒や保護者の教育的ニーズの把握と適切な就学につなげる取組を進めた。 幼児ことばの教室では、保育所・こども園や関係部署と連携し、就学前からの相談・支援に努めた。適応指導教室においても、指導員３人を配置し、不登校傾向にある児童生徒の状況に応じた支援を行った。通級教室は３学級、特別支援学級は４学級を開設済であり、児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに対応する体制を整備している。
今後の課題方向性	特別な支援を必要とする児童生徒や不登校傾向にある児童生徒の状況を踏まえ、支援員、相談員、適応指導教室等の体制を有効に活用し、一人ひとりの状況に応じた支援のさらなる充実を図る。
教育委員会評価	Ｓ　確実な成果を出している　　Ａ　一定の成果を出している Ｂ　やや成果が低い　　Ｃ　成果が低い
評価に対するコメント	特別支援教育支援員の配置や巡回相談、発達検査、適応指導教室での支援等を通じ、児童生徒や保護者の状況に応じた支援に努めている。今後も、早期の相談や継続的支援を大切に、誰もが安心して学ぶことのできる環境づくりを進めてほしい。

令和８年度　下田市教育委員会の点検・評価シート（令和７年度事業）

1　施策体系・事業等

施策体系	取組３　居場所づくりに向けた取組		
	◇安心して自分の資質・能力を発揮し伸ばすことができる環境づくりに取り組みます	○自分の居場所であると感じられる学校・地域を目指します	
事業等	児童・生徒援護事業	担当	学校教育課

2　事業概要・評価等

事業概要（具体的施策）	【要保護児童及び準要保護児童への支援：準要保護児童就学援助費　892千円】 ・要保護児童２人、準要保護児童14人 【要保護生徒及び準要保護生徒への支援：準要保護生徒就学援助費　1,571千円】 ・要保護生徒３人、準要保護生徒17人 【特別支援教育への支援：特別支援教育就学奨励費 738千円】 ・児童13人、生徒11人
検証	要保護及び準要保護児童・生徒援助に関して、生活保護を必要とする世帯又は生活保護に準じた保護が必要な世帯の児童・生徒に対し、義務教育を円滑に実施することができるよう、学用品や修学旅行費など一定の援助を行い、保護者の経済的な負担の軽減を図った。他市からの転入、傷病等で収入が減少した家庭からの新規申請があり、年度途中新規認定者は６名となった。令和７年度末の認定者数は、前年度に対して５名増となった。 経済的に困窮している家庭には、学校から保護者に制度の案内をし、就学援助制度の周知に努めた。 特別支援教育就学奨励費に関して、小中学校の特別支援学級への就学の特殊事情を考慮し、就学する児童・生徒の保護者等の経済的負担を軽減するため、その負担能力の種類、程度に応じ就学に必要な経費について、一部を補助した。
今後の課題方向性	経済的な理由により就学が困難となる児童・生徒を適切に支援できるよう、就学援助制度の周知を継続するとともに、学校や関係機関との連携を深め、支援を必要とする世帯の把握に努めていく。
教育委員会評価	S　確実な成果を出している　　A　一定の成果を出している B　やや成果が低い　　C　成果が低い
評価に対するコメント	就学に必要な費用の一部を援助することで、保護者の経済的負担の軽減を図り、児童・生徒が安心して義務教育を受けられる環境の確保につなげている。今後も、家庭の状況に応じた必要な支援を適切に行ってほしい。

令和８年度　下田市教育委員会の点検・評価シート（令和７年度事業）

1　施策体系・事業等

施策体系	取組３　居場所づくりに向けた取組		
	◇安心して自分の資質・能力を発揮し伸ばすことができる環境づくりに取り組みます	○自分の居場所であると感じられる学校・地域を目指します	
事業等	不登校等対策連絡協議会 いじめ防止への対応 生徒指導研修会 人権教育	担当	学校教育課

2　事業概要・評価等

事業概要（具体的施策）	【不登校児等対策連絡協議会 年１回】 ・市内児童生徒の不登校についての情報共有及び協議 【生徒指導研修会の開催　年４回】 ・各校の生徒指導担当者による情報交換 ・子ども一人ひとりを理解し、成長を支える生徒指導の推進 ・いじめ・不登校対策連絡協議会を兼ねた情報交換 【適応指導教室の運営】 ・会計年度任用職員３名を配置
検証	10月21日に生徒指導研修会を兼ね、不登校児童対策連絡協議会を開催し、市内小中学生の不登校やいじめの状況について情報共有を行った。 11月17日に下田市いじめ問題対策連絡協議会及び下田市いじめ問題対策専門委員会合同会議を開催した。令和７年度いじめ認知件数は小中学校計110件（昨年度90件）であり、深刻な事案は無かった。早期発見の積み重ねが未然防止につながるため、軽微なものでも認知する体制を継続したい。 生徒指導研修会では、改定された生徒指導提要の重点箇所の伝達講習を行った。また、各校のいじめ防止基本方針を持ち寄り、気になる箇所について共有を図った。あわせて、児童生徒等の情報交換、「いじめ・自殺問題への適切な対応」という議題での伝達講習を行い、いじめの積極的認知と未然防止・初期対応の重要性について生徒指導担当との共通理解を図った。 不登校児対策として、適用指導教室に指導員３名を配置し、不登校傾向にある児童生徒の状況に応じた支援を行った。
今後の課題方向性	不登校やいじめ等の課題が複雑化する中、学校内での組織的な対応に加え、関係機関との連携を深め、早期の把握と適切な支援につなげていく。支援を必要とする児童生徒への理解を深め、それぞれの状況に応じた指導の充実を図る。
教育委員会評価	S　確実な成果を出している　　A　一定の成果を出している B　やや成果が低い　　C　成果が低い
評価に対するコメント	情報共有や研修等を通じて、児童生徒の状況を多面的に捉え、早期に対応するための共通理解が図られている。今後も、学校、家庭、関係機関が連携して安心して学校生活を送ることができる環境づくりを期待したい。

令和８年度　下田市教育委員会の点検・評価シート（令和７年度事業）

1　施策体系・事業等

施策体系	取組３　居場所づくりに向けた取組		
	◇安心して自分の資質・能力を発揮し伸ばすことができる環境づくりに取り組みます	○自分の居場所であると感じられる学校・地域を目指します	
事業等	学校公開・学校評価	担当	学校教育課

2　事業概要・評価等

事業概要（具体的施策）	【学校公開】 ・学校だより等を利用した自校教育活動等の発信 ・学校行事を通じた教育活動の公開 【学校評価】 ・児童、保護者を対象とした学校生活アンケートの実施 ・アンケート結果を教職員で共有し、教委活動の改善に活用 ・学校自己評価及び学校評議員等による学校関係者評価
検証	学校行事や参観会、一日参観等を実施し、保護者等に学校の教育活動を公開するとともに、学校だより等を通じて各校の取組や児童生徒の活動の様子を地域に発信した。 学校評価では、各学校において児童生徒、保護者を対象とした学校生活アンケートを実施した。アンケート結果を教職員全体で共有し、教育活動の成果や課題を把握した上で、具体的な改善策を検討した。 さらに、学校自己評価に加え、学校評議員や地域の有識者等による学校関係者評価を実施し、学校運営や教育活動について外部からの意見を取り入れながら、教育活動の改善を進めた。
今後の課題方向性	学校だよりや学校行事、参観会等を通じた情報発信を継続するとともに、保護者や地域が学校の教育活動を理解し、関わることのできる機会の充実を図り、「社会に開かれた教育活動」の実現につなげていく。 また、学校評価については、アンケート結果や学校関係者からの意見を教育活動の改善に効果的に生かすとともに、評価・改善の取組が一過性のものとならないよう、ＰＤＣＡサイクルを意識した学校運営の充実を図っていく。
教育委員会評価	Ｓ　確実な成果を出している　　Ａ　一定の成果を出している Ｂ　やや成果が低い　　Ｃ　成果が低い
評価に対するコメント	学校行事や参観会等を通じて、保護者や地域に学校の取組を知ってもらう機会を確保するとともに、学校生活アンケートや学校関係者評価を活用し、教育活動の成果や課題を把握しながら、各校の取組の改善につなげられている。今後も、保護者や地域との連携を大切にしながら、学校の教育活動を積極的に発信するとともに、評価結果を改善し、地域とともに子どもたちを育てる学校づくりを進めてほしい。

令和８年度　下田市教育委員会の点検・評価シート（令和７年度事業）

1　施策体系・事業等

施策体系	取組３　居場所づくりに向けた取組		
	◇安心して自分の資質・能力を発揮し伸ばすことができる環境づくりに取り組みます	○自分の居場所であると感じられる学校・地域を目指します	
事業等	青少年健全育成事業	担当	生涯学習課

2　事業概要・評価等

事業概要（具体的施策）	【青少年健全育成の推進】 各小学校等における見守り活動、挨拶運動、街頭キャンペーンなどの実施 県主催のネット依存対策ワークショップ等への協力 キャンプ禁止区間に伴うパトロールの実施 【青少年健全育成会】 青少年健全育成連絡協議会及び青少年補導センターとの合同研修会の開催 ・青少年健全育成啓発用品　31千円、青少年健全育成看板作成　20千円 【青少年補導センター】 補導活動等の実施や青少年健全育成会との連携事業の実施 公用車による青色防犯パトロールを推進するための実施者講習会の開催 ・受講者　計８名（実施者証の更新：４名、新規取得者：４名） ・青少年補導員報酬　155千円
検証	青少年補導センターでは、各地域から選出された補導員を委嘱し、地域での声掛け運動を始め、登下校時間などの青色防犯パトロール及び夜間の補導活動や、キャンプ禁止期間における海岸パトロール及び夜間指導などを実施した。 また、非行防止キャンペーン等の広報啓発活動や店舗への立入調査等の環境浄化活動を実施し、地域ぐるみの青少年健全育成意識の向上を図った。 青少年健全育成会と青少年補導センターによる合同研修会の実施により、地域学校協働活動の仕組みを学び、青少年の健全育成に伴う地域と大人の関わり方について意識向上が図られた。
今後の課題方向性	引き続き、各種キャンペーン等の実施を通じ、青少年の非行防止や犯罪被害を防ぐための活動を推進していく。 また、各学校に、学校と地域の橋渡し役となる地域学校協働活動推進員を配置し、地域と学校の連携を深めることで、地域全体で子ども達を見守り、育んでいく環境を整備する。
教育委員会評価	Ｓ　確実な成果を出している　　Ａ　一定の成果を出している Ｂ　やや成果が低い　　Ｃ　成果が低い
評価に対するコメント	青少年の健全育成にもつなげるため、地域学校協働活動を推進し、青少年の非行防止や青少年を犯罪被害から守るための活動へ広げてほしい。 また、ＳＮＳ関連のトラブル等、社会情勢の変化に対応する新たな対策についても引き続き取り組んでほしい。

令和８年度　下田市教育委員会の点検・評価シート（令和７年度事業）

1　施策体系・事業等

施策体系	取組３　居場所づくりに向けた取組		
	◇安心して自分の資質・能力を発揮し伸ばすことができる環境づくりに取り組みます	○自分の居場所であると感じられる学校・地域を目指します	
事業等	しずおか寺子屋 in しもだ	担当	学校教育課

2　事業概要・評価等

事業概要（具体的施策）

夏季休業期間中に市内高校生が講師となり、希望する市内小中学生を対象とした学習支援を行った。高校生が小中学生に勉強を教える機会を設けることで、小中学生の学習意欲向上と多様な学習機会の提供、学校種を超えた交流・学び合いを行うことができた。

○「しずおか寺子屋inしもだ」開催結果

日時	場所	参加者
令和７年８月７日	下田市中央公民館	小学生 21 名、中学生９名
令和７年８月８日	下田市中央公民館	小学生 29 名

※高校生は両日で計27名が参加した。

検証

令和６年度以前に県事業として実施していたものを、令和７年度から下田市が引き継ぐかたちで開催した。

小中学生にとっては、普段とは異なる環境で学習に取り組む機会となり、身近な存在である市内高校生から直接勉強を教わることで、普段の授業とは異なる刺激を受けるとともに、学習や進学について考えるきっかけとなった。また、高校生にとっても、自ら学んできた知識を小中学生に教えることを通じて、相手の理解度に応じて説明することや、相手の反応を見ながら関わることの難しさを経験するとともに、分かりやすく伝えることの大切さや教えることの達成感等を実感する機会となった。

今後の課題方向性

令和７年度からの新規事業であることを踏まえ、次年度以降の実施については、より効果的な開催方法、募集手段等を再度検討する。各世代の子ども達が交流しながら学びの機会を持てる、意義ある事業であることから、今後も長く継続していけるように更なる充実を図りたい。

教育委員会評価

S　確実な成果を出している　　A　一定の成果を出している

B　やや成果が低い　　C　成果が低い

評価に対するコメント

市内高校生が講師となり、小中学生の学習を支援する取組は、児童生徒の学習機会の充実に加え、高校生にとっても、教えることを通して自らの学びを深める貴重な機会である。小中学生にとっても、身近な高校生から学ぶことで刺激を受け、学習や進学について考えるきっかけとなる等、通常の学校教育とは異なる教育効果が期待できるため、今後の事業の一層の充実に努めてほしい。

令和８年度　下田市教育委員会の点検・評価シート（令和７年度事業）

1　施策体系・事業等

施策体系	取組３　居場所づくりに向けた取組		
	◇安心して自分の資質・能力を発揮し伸ばすことができる環境づくりに取り組みます	○命を大切にし、安全かつ安心して生活できる環境づくりを目指します	
事業等	通学路安全対策事業	担当	学校教育課

2　事業概要・評価等

事業概要（具体的施策）	【移動経路の安全点検】 ○令和７年４月８日（火） 浜松市での通学中の交通事故報道を受け、関係機関で協議を実施 ○令和７年４月22日（火） 五丁目地内、河内地内の安全点検を実施 【小中学校の移動経路安全推進合同点検及び合同会議】 ○令和８年２月27日（金） 市内４箇所（東本郷、４、５，６丁目）を合同点検、その後合同会議 【対策実施箇所】 ・市道土浜高馬線（舗装の打替え、区画線の引き直し） ・準用河川広岡川（転落防止柵修繕）
検証	児童生徒が安全に通学できる環境を確保するため、道路管理者、警察、学校関係者等と連携した安全点検及び合同点検・合同会議を実施した。 学校から報告された危険箇所について、関係機関が共同で確認し、課題を共有するとともに、それぞれの立場から必要な対策を検討することができ、通学路の安全確保に向けた連携体制の強化につながった。 一方、通学路の安全対策には道路改良や歩道整備等、短期間で改善することが困難な場所もあるため、定期的に点検、会議等を開催し、継続的な問題意識の共有と状況に応じた検討の見直し等も重要となる。
今後の課題方向性	今後も、学校、教育委員会、道路管理者、警察等の関係機関が連携し、定期的な通学路の安全点検や合同会議を開催し、これまで把握した危険箇所について、対策の進捗度合や現地の状況等を継続的に確認する。また、児童生徒の通学環境は、道路環境の変化や交通状況、周辺の土地利用等によって変化することから、新たな危険箇所についても、学校から情報を収集し、必要に応じて点検・対策につなげる仕組みを整えていく。こうした取組は「下田市子供の移動経路に関する交通安全プログラム　子供の移動経路、通学路等の安全確保に関する取組の方針」に基づくＰＤＣＡサイクルによるものである。
教育委員会評価	Ｓ　確実な成果を出している　　Ａ　一定の成果を出している Ｂ　やや成果が低い　　Ｃ　成果が低い
評価に対するコメント	学校現場から寄せられた情報を合同点検や会議を通じて関係機関と共有し、具体的な対策につなげようとしている点は、児童生徒の安全を地域全体として守る取組として重要である。今後も適切な情報収集と継続的な検討により、安全対策の充実に努めてほしい。

令和８年度　下田市教育委員会の点検・評価シート（令和７年度事業）

1　施策体系・事業等

施策体系	取組３　居場所づくりに向けた取組		
	◇安心して自分の資質・能力を発揮し伸ばすことができる環境づくりに取り組みます	○命を大切にし、安全かつ安心して生活できる環境づくりを目指します	
事業等	児童・生徒通学費補助事業 中学生自転車安全対策	担当	学校教育課

2　事業概要・評価等

事業概要（具体的施策）	【児童・生徒通学費補助事業】 ○児童通学費補助金：1,218,840円 ・稲梓小16人、白浜小16人、朝日小9人　計41人 路線バス及び市コミュニティバス平日通学定期券の支給 ○生徒通学費補助金：29,213,240円 ・定期券補助　対象者252人 路線バス平日通学定期券＋土日用ウィークデー補助券の支給 ・自転車通学費補助　対象者67人 年額14千円＋雨天時路線バス利用回数券の補助 【自転車損害賠償保険加入補助金】 ・下田中31件　生徒一人当たりの自転車通学者の損害賠償保険加入に係る保険料の１/２又は１千円のいずれか低い方の額 【中学生自転車安全対策】 ・新しく中学校へ自転車で通学する生徒に対する自発光式反射板の配付
検証	稲梓地区でスクールバスを利用する生徒が減少していることから、路線バスを利用する稲生沢地区の一部生徒にスクールバスを利用してもらうことで、通学費補助にかかるコストの削減を図った。 静岡県自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例により、令和元年10月から自転車利用者の保険加入が義務化されたため、当該保険への加入促進を目的として保険加入に係る保険料に対しての補助を行い、保護者の負担軽減を図った。自転車損害賠償保険加入補助金については、利用促進を図るため、対象を世帯から生徒単位に変更するなど補助要件を緩和した。
今後の課題方向性	通学補助事業となる補助金交付事務を適正に執行するとともに、問題点についても柔軟に対応し、学校及び児童生徒に不都合の無いよう実施する。
教育委員会評価	[S　確実な成果を出している]　A　一定の成果を出している B　やや成果が低い　C　成果が低い
評価に対するコメント	通学費の補助や自転車通学に対する支援を行うことで、児童・生徒の安全な通学環境の確保と保護者の経済的負担の軽減につなげることができる。今後も通学実態や交通環境の変化を踏まえ、必要な支援を継続するとともに、安全な自転車利用の意識向上を図っていただきたい。

令和８年度　下田市教育委員会の点検・評価シート（令和７年度事業）

1　施策体系・事業等

施策体系	取組３　居場所づくりに向けた取組		
	◇安心して自分の資質・能力を発揮し伸ばすことができる環境づくりに取り組みます	○防災教育を通して、命を守るために自ら考え、人のためにも行動できる人を目指します	
事業等	地域と連携した防災・防犯教育	担当	学校教育課

2　事業概要・評価等

事業概要（具体的施策）	【防災教育】 ・学校と地域が連携した防犯教育の実施 ・災害に応じた防災訓練等の見直しと効果的な実施 ・土砂災害や津波を想定した各校の避難経路の確認 【防犯教育】 ・子どもの体験型防犯講座「あぶトレ！」の実施（稲梓小、朝日小） 【避難所運営】 ・児童生徒等による避難所運営訓練の実施
検証	児童生徒が災害発生時に自らの命を守るための知識や判断力、行動力を身に付けることができるよう、各学校において避難訓練や防災教育を実施した。実施にあたっては関係機関と連携し、地域の実情に応じた防災教育の充実に努めた。 令和７年７月のカムチャツカ半島付近を震源とする地震に伴い津波警報が発表された際には、下田中学校をはじめとする市内の指定避難所に多くの市民が避難した。当日は夏休み期間中であったが、これまでの訓練活動等の成果により、多くの教員が避難所運営に参加するとともに、避難者の中にいた生徒もボランティアを名乗り出て、協力する姿が多数見受けられた。 防犯教育においては、県くらし交通安全課主催の体験型防犯講座「あぶトレ！」を稲梓・朝日小学校にて実施し、児童の防犯意識の高揚を図った。
今後の課題方向性	近年、自然災害等が全国各地で発生していることを踏まえ、今後も地域の実情や災害リスクを踏まえた実践的な防災教育を継続していく必要がある。学校が避難所となることも踏まえ、児童生徒が地域の一員として災害時に果たすべき役割について考える機会へつなげていく。 防犯教育についても、自分自身を守るために必要な知識や心構え、危険な状況に遭遇した際の行動について具体的に考える機会となっており、今後も継続的に各学校での開催機会を設けていくこととしたい。
教育委員会評価	S　確実な成果を出している　　A　一定の成果を出している B　やや成果が低い　　C　成果が低い
評価に対するコメント	津波警報発表時の下田中学校での避難対応は、毎年実施する「ユニバーサル避難訓練」の成果と受けとめる。今回の経験等で得た課題を共有し、更なる改善につなげてほしい。防犯教育についても県交通安全課主催の貴重な機会であるため、児童への意識づけにつながる効果的な実施を期待したい。

令和８年度　下田市教育委員会の点検・評価シート（令和７年度事業）

1　施策体系・事業等

施策体系	取組４　資質・能力を育成する取組		
	◇自分や地域の未来を切り拓くことができる資質・能力を伸ばします	○実際の社会や生活で生きて働く知識や技能を身に付けます ○未知の状況にも対応できる、思考力、判断力、表現力などを身に付けます ○学んだことを人生や社会に生かそうとする力を身に付けます	
事業等	市指定研究校への支援 研修主任研修の開催 校内研修への支援	担当	学校教育課

2　事業概要・評価等

事業概要（具体的施策）	【市指定研究校への支援】 ・令和７年 11 月 12 日(水)　下田市教育研究会指定研究発表（浜崎小） 【市研修主任研修会の開催　年３回】 ・各校の校内研修と教育の動向について ・令和の日本型学校教育と全国学力調査のクロス集計について ・年間の研修の振り返りと来年度に向けて 【校内研修への支援】 ・指導主事による各小中学校の訪問と校内研修についての指導・助言
検証	下田市教育研究会指定研究発表では、浜崎小学校が２年間にわたる研究実践の成果を発表した。子どもたちが主体的に学びに向かい、互いに学び合うことで、【しなやかに　共に励む　浜崎っ子】の具現化につながっていくとの思いから、「主体的に考え、学び合う子」を研究テーマとして設定し、研究を進めた。教師主導ではなく、子どもが主役となる授業づくりを進めたことで、自分たちで課題を解決しようとする意欲や、友達との対話を通して学び合おうとする姿が日常の授業の中に広がってきた。 研修主任研修会では、互いの校内研修の取組等を学び合うことで、自校の校内研修に生かした。また、研修の日常化に向けて、有意義な意見交換をすることができた。
今後の課題方向性	引き続き令和の日本型学校教育をベースに「個別最適な学び」と「協働的な学び」の確立に迫っていけるように研修を進める。また、教職員として求められる資質、能力の向上を図る観点から、人権教育や特別支援教育への理解も深めていく。
教育委員会評価	S　確実な成果を出している　　[A　一定の成果を出している] B　やや成果が低い　　C　成果が低い
評価に対するコメント	各校では、熱心に授業改善の取組が進められている。個別最適な授業づくりへの一層の探究と、その方策としてのＩＣＴの効果的な活用について検討を進めてもらいたい。

令和８年度　下田市教育委員会の点検・評価シート（令和７年度事業）

1　施策体系・事業等

施策体系	取組４　資質・能力を育成する取組		
	◇自分や地域の未来を切り拓くことができる資質・能力を伸ばします	○実際の社会や生活で生きて働く知識や技能を身に付けます ○未知の状況にも対応できる、思考力、判断力、表現力などを身に付けます ○学んだことを人生や社会に生かそうとする力を身に付けます	
事業等	教育資金利子補給事業 奨学奨励費交付事業	担当	学校教育課

2　事業概要・評価等

事業概要（具体的施策）	【教育資金利子補給金交付事業：251千円】 対象者19人に対して利子補給金を交付 【就学奨励金交付事業：500千円】 対象者５人に対して就学奨励金を交付
検証	教育資金利子補給金交付事業については、教育の機会均等及び経済的負担の軽減を図り、教育の振興に寄与するため、教育資金の融資を受けた者に対する利子補給金を交付し、保護者の負担軽減を図った。令和７年度は新規申請が２件あり、２件全て認定した。 就学奨励金交付事業については、経済的理由により高等学校等に就学することが困難な者に対し、その経済的負担の軽減を図り、有為な人材の育成及び教育の振興に資することを目的として交付した。下田市奨学生選考委員会において、対象者５人に対し、一人当たり 10 万円の就学奨励金の交付を決定した。
今後の課題方向性	経済的な理由により進学を断念することがないよう、教育資金に係る利子負担の軽減や就学奨励金の交付を引き続き行うとともに、学校等と連携して制度の周知に努め、支援を必要とする生徒や保護者が適切に制度を利用できる環境を整えていく。
教育委員会評価	S　確実な成果を出している　　A　一定の成果を出している B　やや成果が低い　　C　成果が低い
評価に対するコメント	教育資金の利子補給や就学奨励金の交付を通じて、進学に伴う経済的負担の軽減を図り、教育を受ける機会の確保につなげている。今後も、支援を必要とする生徒や保護者に制度を確実に届けられるよう周知を図るとともに、経済的な事情に左右されることなく進学を目指せる環境づくりを進めていただきたい。

令和８年度　下田市教育委員会の点検・評価シート（令和７年度事業）

1　施策体系・事業等

施策体系	取組４　資質・能力を育成する取組		
	◇自分や地域の未来を切り拓くことができる資質・能力を伸ばします	○実際の社会や生活で生きて働く知識や技能を身に付けます ○未知の状況にも対応できる、思考力、判断力、表現力などを身に付けます ○学んだことを人生や社会に生かそうとする力を身に付けます	
事業等	授業づくり支援 初任者研修会の開催	担当	学校教育課

2　事業概要・評価等

事業概要（具体的施策）	【授業づくり支援】 ・指導主事による授業参観及び事後研修会 ・学級づくりや人間関係づくりを基盤とした授業についての指導・助言 【市初任者研修会　年３回】 ・授業参観の基本講義、着目児研修について ・学級づくりを基盤とした授業についての指導・助言 ・先輩授業の参観をきっかけとした、学級集団づくりについての協議
検証	各校への授業づくり支援では、指導主事が訪問を行う際、「個別最適な学び」「協働的な学び」を念頭に助言し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりに継続して取り組んでいる。 初任者研修会では、子供の思いや考えを大切にした導入や授業展開の工夫について先輩教員と賀茂地区初任者５名で協議をした。賀茂地区は小規模校化が進み初任者配置は、１校１人が当たり前の状況となっているため同期のメンバーと協議することは、非常に貴重な機会となっている。また、校種や市町を超えて交流できることが賀茂地区の初任者研修の強みであるため今後も賀茂地域教育振興センターとの連携を深めた研修を行っていきたい。
今後の課題方向性	個別最適な学びと協働的な学びの実現に向け、児童生徒一人ひとりの多様な学び方や考え方を尊重した授業づくりを推進する。また、初任者が実践的に学ぶ機会を充実させるとともに、賀茂地域教育振興センターとの連携を図り、教員の資質・能力の向上につなげていく。
教育委員会評価	S　確実な成果を出している　　A　一定の成果を出している B　やや成果が低い　　C　成果が低い
評価に対するコメント	指導主事による授業参観や指導・助言、初任者研修における先輩教員の授業参観・協議等を通じ、教員の授業改善や指導力の向上を支援している。今後も、児童生徒の主体的な学びを大切にしながら、教員同士が実践を共有し、学び合う機会の一層の充実を期待したい。

令和８年度　下田市教育委員会の点検・評価シート（令和７年度事業）

1　施策体系・事業等

施策体系	取組５　健やかな心身を育成する取組		
	◇生涯を通じて充実した人生を送るために、健やかな心身と豊かな感性を育みます	○健やかな心身を支える健康な体づくりを目指します	
事業等	小中学校児童生徒対外派遣事業補助金 部活動指導員配置事業	担当	学校教育課

2　事業概要・評価等

事業概要（具体的施策）	【小中学校児童生徒対外派遣事業補助金：5,240,475円】 ・中体連、中文連等の大会へ派遣される経費の一部を補助金として支出 【部活動指導員配置事業等】 ・会計年度任用職員報酬　173,600円 ・部活動支援業務委託　　968,000円 ・下田中学校　サーフィン部に部活動指導員２名を配置 【部活動の在り方検討協議会】 令和８年２月18日（水）　道の駅開国しもだみなと
検証	小中学校児童生徒対外派遣事業補助金については、部活動の各種大会等への参加に必要となる交通費等の経費を補助することにより、保護者の経済的負担の軽減を図るとともに、児童生徒が意欲的に部活動に取り組み、日頃の練習の成果を発揮するための機会を確保した。令和７年度には、女子テニス部が中体連東海大会に出場を果たす等、日頃の活動の成果を大会等の場で発揮することができた。 部活動指導員配置事業等については、下田中学校サーフィン部に対して部活動指導員２名を配置するとともに、部活動支援業務委託を（公財）下田市振興公社が請け負うことで、専門的な指導と部活動顧問の多忙解消に寄与した。 また、国から部活動改革及び地域クラブ活動の推進等に関する新たなガイドライン（令和７年12月）が示されたことを受け、部活動の在り方検討協議会を開催し、市内スポーツ関係団体代表者と情報の共有を図った。
今後の課題方向性	今後も部活動に取り組む児童生徒が、経済的な事情によって対外大会への参加機会を失うことのないよう支援を継続し、生徒が安心して活動に専念できる環境の確保に努めることとしたい。一方、今後は部活動の地域展開による地域クラブ移行対応が必要となることから、その状況を踏まえた補助制度の見直し検討が必要となる。また、地域クラブ移行を進めるためには指導者確保が大きな課題となることから、県、近隣市町と連携した取組も視野に入れ検討を進めていく。
教育委員会評価	S　確実な成果を出している　　A　一定の成果を出している B　やや成果が低い　　C　成果が低い
評価に対するコメント	対外的な大会で結果を出す部活動があることは本事業の趣旨に合致する成果である。部活動の地域展開については、生徒が自らの希望や能力に応じて、継続的にスポーツ・文化活動に取り組める環境整備につながることを期待したい。

令和８年度　下田市教育委員会の点検・評価シート（令和７年度事業）

1　施策体系・事業等

施策体系	取組５　健やかな心身を育成する取組		
	◇生涯を通じて充実した人生を送るために、健やかな心身と豊かな感性を育みます	○健やかな心身を支える健康な体づくりを目指します	
事業等	学校給食管理運営事業	担当	学校教育課

2　事業概要・評価等

事業概要（具体的施策）	学校給食センターは小中学校８校と県立伊豆の国特別支援学校伊豆下田分校１校へ給食を提供し、調理配送等業務はシダックス大新東ヒューマンサービス㈱への業務委託をしている。 【債務負担行為(令和９年度まで)】令和６年度　0 千円、令和７年度 60,984 千円 令和８年度 60,984 千円、令和９年度 60,984 千円　総額 182,952 千円 【給食費公会計化】 学校給食管理システムにより、市において賦課・徴収業務を行っている。 学校等給食費： 収入済額 59,654,878 円(幼稚園等給食費除く。)、収入未済額 558,000 円 【衛生管理・食育推進】 衛生管理の実施、アレルギー児童生徒への対応、地域食材を活用した給食提供 【地方創生臨時交付金を活用した給食費の保護者負担額 軽減】 小学校：307 円/食のところ 260 円/食とし、47 円/食 軽減 中学校：368 円/食のところ 310 円/食とし、58 円/食 軽減 【炊飯設備追加における設計業務】 主食取扱業者の減少、炊飯委託業者の衛生管理の状況を踏まえ、給食センター内での炊飯の供給のための炊飯設備設置工事設計業務委託を実施した。 炊飯設備設置工事設計業務委託　3,740,000 円
検証	調理配送等業務の民間委託に伴い、定期的な業務確認、意見交換、研修会など、徹底した安全管理により、安定した学校給食が提供できた。 食物アレルギーの児童生徒を把握し、安全性を最優先にした対応を実施した。 児童生徒の給食費のみ引上げ分に物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用し、保護者負担額の軽減を図った。一方で大雨とボイラー故障により、学校給食を提供できない日が２日あり、非常食と保護者による弁当で対応した。
今後の課題方向性	食材費高騰の中、栄養価を維持した給食提供のため、給食費改定を検討するとともに、適正な賦課徴収事務の執行として、未収金回収及び児童手当からの徴収を推進する。また、今後は炊飯設備追加における工事や調理配送等業務委託の追加契約を進める。
教育委員会評価	S　確実な成果を出している　　A　一定の成果を出している B　やや成果が低い　　C　成果が低い
評価に対するコメント	給食センターの運営は、徹底した安全管理により良好に行われている。学校給食費の適正な賦課徴収事務の執行とともに、地元食材を活用した給食を通じての食育に一層尽力されたい。

令和８年度　下田市教育委員会の点検・評価シート（令和７年度事業）

1　施策体系・事業等

施策体系	取組５　健やかな心身を育成する取組		
	◇生涯を通じて充実した人生を送るために、健やかな心身と豊かな感性を育みます	○健やかな心身を支える健康な体づくりを目指します	
事業等	学校体育施設開放事業 スポーツ推進事業	担当	生涯学習課

2　事業概要・評価等

事業概要（具体的施策）

【学校体育施設の開放】

市民の体育及びレクリエーションの振興を図るため、市内小学校及び中学校の施設（体育館、グラウンド）を開放し、各スポーツ団体に活動場所を提供した。

施　設	件　数	利用人数	使用料収入
体育館	1,374	19,521	721,100
グラウンド	234	3,555	407,250

【下田市体育協会】

・市町対抗駅伝大会下田市選手団派遣業務委託　2,300 千円

・下田市スポーツ祭業務委託　317 千円

・下田市体育協会補助金(育成強化事業、普及事業他)　392 千円

【全国大会等出場費補助金】

スポーツ及び文化活動を通じた青少年の健全な育成を図るため、空手２名、野球６名の計８名の選手に交付した。

検証

競技スポーツの振興、スポーツ関係団体の育成を図るため、下田市体育協会に下田市スポーツ祭の開催及び第 26 回静岡県市町対抗駅伝競走大会下田市選手団の派遣を委託した。市町対抗駅伝競走大会の結果は、市の部 24 位（25 チーム中）記録は２時間 27 分 56 秒であった。

さらに、学校施設（体育館・グラウンド）の開放事業を行い、各スポーツ団体に活動場所を提供した。

今後の課題方向性

体育協会加盟団体の実態を把握した上で、必要な支援を適切に実施する。市のスポーツ施策の担い手である体育協会の活動を活性化させることで、課題となっている部活動の地域展開の解決にもつなげていきたい。

競技スポーツの振興、スポーツ関係団体の育成を図るため、学校体育施設の適正な維持管理に努める。

教育委員会評価

S　確実な成果を出している　　A　一定の成果を出している

B　やや成果が低い　　C　成果が低い

評価に対するコメント

学校体育施設の開放については、利用者が施設を安全・安心に利用できるよう、学校教育課、各校と連携し、適切な管理運営に努めてほしい。

また、中学校の部活動の地域展開が継続的な課題となっているため、市内関係者と連携し、指導者育成や移行に向けた体制整備を進めていってほしい。

令和８年度　下田市教育委員会の点検・評価シート（令和７年度事業）

1　施策体系・事業等

施策体系	取組５　健やかな心身を育成する取組		
	◇生涯を通じて充実した人生を送るために、健やかな心身と豊かな感性を育みます	○健やかな心身を支える健康な体づくりを目指します	
事業等	下田市民スポーツセンター管理運営事業 吉佐美運動公園管理運営事業	担当	生涯学習課

2　事業概要・評価等

事業概要（具体的施策）

【下田市民スポーツセンター】指定管理料　21,167 千円

施設＼年度	令和７年度		
	件数	利用者数	利用料収入
体育館	1,137	16,039	3,594,510
会議室１	249	5,341	
会議室２	244	2,336	
視聴覚室	613	11,754	
創作実習室	328	4,337	
陶芸窯	35	298	
合計	2,606	40,105	3,594,510

【吉佐美運動公園】管理業務委託 990千円

施設名	令和７年度			
	使用者数			使用料収入
	市内	市外	計	
運動広場	3,800	1,266	5,066	260,730

検証

市民スポーツセンターにおいては、平成 18 年度から指定管理者制度を導入しており、令和３年度から令和７年度までの５か年について、(公財) 下田市振興公社を指定管理者に指定していたが、持続可能な施設のあり方を検討することを目的に、令和９年度から市の直営に切り替えることとなったため、その準備期間として、令和８年度までの１年間の指定管理期間の延長を行った。今後は直営化に向け、市民や利用者に混乱を与えないよう、振興公社職員と連携し、適切に準備を進めていく必要がある。

吉佐美運動公園有料施設の使用は、軟式野球、サッカー、グラウンドゴルフを中心に 212 件 5,066 人であった。

今後の課題方向性

今後も適切な維持管理を行い、利用者サービスの向上に努める。

スポーツセンターについては、直営化後もサービスの質を維持できるよう、振興公社と連携し、直営化への移行に着手する。

教育委員会評価

S　確実な成果を出している　　[A　一定の成果を出している]

B　やや成果が低い　　C　成果が低い

評価に対するコメント

今後も適切な維持管理に努めるとともに、スポーツセンターの直営化にあたっては市民や利用者に混乱を与えないよう、振興公社と綿密に調整した上で移行作業を進めてほしい。

令和８年度　下田市教育委員会の点検・評価シート（令和７年度事業）

1　施策体系・事業等

施策体系	取組５　健やかな心身を育成する取組		
	◇生涯を通じて充実した人生を送るために、健やかな心身と豊かな感性を育みます	○健やかな心身を支える健康な体づくりを目指します	
事業等	スポーツ推進事業	担当	生涯学習課

2　事業概要・評価等

事業概要（具体的施策）

【各種スポーツイベントの開催】

開催日	内容	参加者数
７月11日（金）	ボッチャ教室（下田市民文化会館小ホール）	21
11月15日（土）	ボッチャ大会（下田市民スポーツセンター）	84
６月 15 日（日）	第３回黒船アクアスロン（まどが浜海遊公園）	117
１月 25 日（日）	第 54 回下田・河津間駅伝競走大会（河津町～下田市）	300（35 チーム）
８月 23 日（土）～1 月 24 日(土)	下田市スポーツ祭 実施競技：陸上競技、サッカー、テニス、バレー、バスケット、軟式野球、水泳、ソフトテニス、ゴルフ、グラウンドゴルフ、合気道、ビーチバレー	1,383

検証

生涯スポーツの普及を図るため、スポーツ推進委員と連携し、ボッチャ教室・ボッチャ大会、他団体のスポーツ事業に対し支援・協力を行った。

市民の健康増進とスポーツによる地域活性化を目的に、第３回黒船アクアスロン及び第 54 回下田・河津間駅伝競走大会を実施した。

今後の課題方向性

ボッチャの普及は一定の成果を挙げており、今後はボッチャ以外にも市民の運動習慣の獲得に繋がるような新規イベントの検討に着手する。

下田・河津間駅伝競走大会及び黒船アクアスロンについては、参加募集に向けた PR を強化し、参加者数増加への取組を図っていく。

教育委員会評価

S　確実な成果を出している　　[A　一定の成果を出している]

B　やや成果が低い　　C　成果が低い

評価に対するコメント

各競技団体や、地域おこし協力隊等と連携し、市民が気軽に参加できるスポーツイベントを企画してほしい。

令和８年度　下田市教育委員会の点検・評価シート（令和７年度事業）

1　施策体系・事業等

施策体系	取組５　健やかな心身を育成する取組		
	◇生涯を通じて充実した人生を送るために、健やかな心身と豊かな感性を育みます	○道徳教育や読書活動の充実を図り豊かな心の育成を目指します	
事業等	道徳教育の充実	担当	学校教育課

2　事業概要・評価等

事業概要（具体的施策）	【道徳教育の充実】 ・子ども一人ひとりが主体的に「考え、議論する道徳」の授業づくりの推進 ・教育活動全体を通した豊かな心を育む道徳教育の推進
検証	児童生徒が、よりよく生きるために必要な道徳的な判断力や実践意欲を身に付けることができるよう、各学校において道徳科の授業を中心とした道徳教育を実施した。道徳科の授業では、生命の尊さ、思いやり、友情等の道徳的価値について、自分自身の生活や経験と結び付けて考えるとともに、友達の考えを聞くことで、自分の考えを広げたり深めたりする学習を進めた。 また、教育委員会では、指導主事が道徳科の授業を参観し、授業の展開や児童生徒の学習状況を把握するとともに、授業改善に向けた助言等を行った。 これらの取組を通じて、児童生徒が多様な考えに触れながら、自分の生き方について考え、他者を尊重する態度を育むことにつながった。
今後の課題方向性	今後も、児童生徒が「自分ならどうするか」「なぜそう考えるのか」を主体的に考え、異なる考えに触れながら議論することのできる道徳科の授業の充実を図る。また、指導主事による授業参観や指導・助言を継続し、各学校の実践や課題を把握するとともに、授業改善や教員の指導力向上につなげていく。 さらに、道徳科で学んだことを学校生活や地域社会との関わりの中で実践につなげられるよう、学校教育全体を通じた道徳教育を推進するとともに、いじめ、人権、情報モラル、多様性等の課題について考える機会の充実を図る。
教育委員会評価	S　確実な成果を出している　　A　一定の成果を出している B　やや成果が低い　　C　成果が低い
評価に対するコメント	道徳科の授業を中心に、児童生徒が様々な道徳的価値について考え、友達の考えに触れながら自分の考えを深める機会を設けていることは評価できる。また、指導主事が授業を参観し、指導・助言を行うことで、各学校の授業改善を支援していることも意義がある。今後も、道徳科で学んだことを実際の学校生活や地域社会での行動につなげるとともに、いじめ、人権、情報モラル、多様性等の今日的な課題について、児童生徒が自分自身の問題として考えることのできる道徳教育の充実を期待したい。

令和８年度　下田市教育委員会の点検・評価シート（令和７年度事業）

1　施策体系・事業等

施策体系	取組５　健やかな心身を育成する取組		
	◇生涯を通じて充実した人生を送るために、健やかな心身と豊かな感性を育みます	○道徳教育や読書活動の充実を図り豊かな心の育成を目指します	
事業等	学校司書の配置・新刊図書の購入 学校図書館蔵書管理システム導入の拡大	担当	学校教育課

2　事業概要・評価等

事業概要（具体的施策）

【学校司書の配置：会計年度任用職員報酬 3,358 千円】
- 学校司書２名による市内全小中学校巡回
- 学校司書及び図書館職員の連携

【新刊図書の購入：図書購入費 2,109 千円】

小学校 1,559 千円、中学校 549 千円
- 児童生徒の読解力に応じた優良図書の購入、読書感想文推薦図書の購入

【学校図書館管理システム：システム使用料 759 千円】

小学校 616 千円、中学校 143 千円

【市内小中学校・貸出状況実績】

	稲梓小	稲生沢小	白浜小	浜崎小	下田小	大賀茂小	朝日小	下田中
Ｒ７年度	1,350	2,592	2,568	4,621	4,717	2,424	3,405	842
Ｒ６年度	2,561	2,299	2,526	3,259	7,310	2,066	2,529	570

検証

学校司書２人が市内小中学校を定期的に巡回し、各校の図書室の環境整備や読書活動の充実に取り組んだ。また、教員、学校司書、市立図書館職員が連携し、図書の紹介や読み聞かせ、朗読等による授業支援を行うとともに、児童生徒の読解力や興味・関心に応じた図書の選定・購入を進めた。

新刊図書については、児童生徒の読書活動や読書感想文等に必要な図書を購入し、蔵書の充実を図った。さらに、学校図書館蔵書管理システムを活用した蔵書管理を行うことで、図書の貸出・返却等に係る管理業務の効率化を進めた。

今後の課題方向性

学校司書の増員等を含めた配置体制について検討を進めるとともに、学校司書と市立図書館職員との連携を深め、児童生徒の読書活動を支える体制の充実を図る。また、蔵書管理システムを有効に活用し、蔵書の適切な管理と利用状況の把握に努めるとともに、必要な図書購入費を確保し、魅力ある学校図書館づくりを進めていく。

教育委員会評価

S　確実な成果を出している　　**A　一定の成果を出している**

B　やや成果が低い　　C　成果が低い

評価に対するコメント

学校司書による専門的支援や新刊図書の整備、市立図書館との連携等により、児童生徒が本に親しむための環境づくりが進められている。また、蔵書管理システムの活用により、図書館運営の効率化にもつながっている。今後も学校司書等との連携し、児童生徒の読書意欲を高める取組と学校図書館の利便性向上を図っていただきたい。

令和８年度　下田市教育委員会の点検・評価シート（令和７年度事業）

1　施策体系・事業等

施策体系	取組５　健やかな心身を育成する取組		
	◇生涯を通じて充実した人生を送るために、健やかな心身と豊かな感性を育みます	○道徳教育や読書活動の充実を図り豊かな心の育成を目指します	
事業等	図書館管理運営事業	担当	生涯学習課

2　事業概要・評価等

事業概要（具体的施策）

【図書館の貸出状況】　※開館日以外は延べ数

開館日数	貸出人数	貸出冊数	登録者数
269日	8,027人	35,524冊	11,954人

【蔵書の状況】

購入図書	寄贈図書	廃棄図書	総数
1,945冊	205冊	16,319冊	86,948冊

【まちじゅう図書館 設置箇所】

地区	下田・本郷	稲生沢	朝日	浜崎	白浜	稲梓
箇所数	5	1	0	0	0	0

検証

読書活動の推進のため、学校、社会福祉協議会、子育て支援センター等と連携し、おはなし会、移動図書館、「ファーストブック」、「セカンドブック」等を開催した他、読み聞かせボランティアグループ「鮎の詩」との協働により朗読会を開催し、文学への興味関心の向上を図った。

三島由紀夫生誕100年記念事業として、11月1日に記念講演会を開催した。

今後の課題方向性

子どもの読書活動の推進に向け、乳幼児期の読書機会の充実に取り組んでいく。学校司書と連携しながら学校訪問を継続するとともに、移動図書館車を活用し、館外図書サービスの拡充を図る。

身近で本にふれる機会の創出に向け、まちじゅう図書館事業をさらに推進し、新規認定の増加に取り組む。

郷土ゆかりの作家を中心に文学の魅力を発信するとともに、図書館利用者の増加に向け、蔵書の整理と館内企画の充実を図る。

郷土資料の収集と保存に努め、下田の歴史や文化の継承を図る。

教育委員会評価

S　確実な成果を出している　　A　一定の成果を出している

B　やや成果が低い　　C　成果が低い

評価に対するコメント

インターネットやスマートフォンの普及等により、図書館に求められる機能が大きく変化している。施設設備の制約はあるが、変化を敏感にとらえ、地域に必要とされる図書館を目指して、移転を視野に既存事業の充実と新たな企画に取り組んでほしい。

令和８年度　下田市教育委員会の点検・評価シート（令和７年度事業）

1　施策体系・事業等

施策体系	取組６　教育政策推進のための基盤整備に向けた取組		
	◇５つの取組を推進するために教育環境の基盤整備に取り組みます	○人材育成に向けた学びの機会や質を保障する教育予算の拡充	
事業等	小・中学校管理事業	担当	学校教育課

2　事業概要・評価等

事業概要（具体的施策）	【小学校管理事業・中学校管理事業】 ・小学校トイレ改修工事（浜崎・下田小学校）4,180 千円 ※トイレ洋式化率 71.0％ ・白浜小学校屋内運動場屋根改修工事　37,180 千円 ・稲生沢小学校遊具修繕（シーソー）　1,393千円 ・朝日小学校体育館排煙オペレーター修繕 1,397千円 ・白浜小学校校舎外壁爆裂修繕　1,177千円 ・下田小学校非常ドア修繕 349千円 ・稲梓小学校職員室エアコン取替修繕　1,787千円 ・大賀茂小学校高圧設備修繕　1,287千円 ・下田中学校スクールバスタイヤ修繕　714千円 ・その他小学校施設修繕件数104件　合計22,145千円（工事は除く） ・その他中学校施設修繕件数 32 件　合計 2,307 千円
検証	静岡県市町村振興協会の助成を受け、小学校トイレ４組の洋式化改修工事を実施した。老朽化により不具合の生じている遊具や学校施設に対して修繕工事を実施することにより、施設や機器等の更新をした。
今後の課題方向性	学校施設の老朽化が進む中、限られた財源を有効に活用するため、学校からの修繕要望や施設の状況を踏まえ、緊急性や安全性等を考慮した優先順位付けを行い、計画的な修繕・改修を進める。また、小学校施設については、今後の学校の在り方を踏まえた教育環境整備の方向性についても検討していく。
教育委員会評価	S　確実な成果を出している　　A　一定の成果を出している B　やや成果が低い　　C　成果が低い
評価に対するコメント	学校からの要望や施設の状況を踏まえ、トイレの洋式化をはじめ、屋根、遊具、外壁、設備等の修繕を実施し、児童生徒の安全・安心な学校生活を支える環境整備を進められている。今後も、緊急性や優先度を見極めながら必要な修繕を着実に行うとともに、施設の老朽化を踏まえた計画的な整備に努めていただきたい。

令和８年度　下田市教育委員会の点検・評価シート（令和７年度事業）

1　施策体系・事業等

施策体系	取組６　教育政策推進のための基盤整備に向けた取組		
	◇５つの取組を推進するために教育環境の基盤整備に取り組みます	○ＩＣＴ、ネット環境に関する基盤整備	
事業等	ＧＩＧＡスクール構想の推進 小・中学校教育振興事業 賀茂地域校務事務共同化協議会	担当	学校教育課

2　事業概要・評価等

事業概要（具体的施策）	【賀茂地域校務支援事務共同化事業】 ・賀茂地域校務支援事務共同化事業負担金　3,708,274円 【小中学校管理事業、小中学校教育振興事業】 ・小学校電子黒板リース829,156円、中学校電子黒板リース223,324円 ・教職員用パソコンリース（160台）　5,512,430円（R7.9～） ・中学校教職員用パソコン再リース（62台）　86,724円（～R7.7） 【ＧＩＧＡスクール構想の推進】 ・小学校パソコンネットワーク保守業務委託　3,273,600円 ・小学校ＧＩＧＡスクールサポーター配置促進業務　3,273,600円 ・中学校パソコンネットワーク保守業務委託　3,971,660円 ・中学校ＧＩＧＡスクールサポーター配置促進業務　1,871,760円 ・授業支援ソフトロイロノート使用料　975,150円 ・ＡＩドリル使用料　2,079,000円 ・教育用端末購入　59,508,625円、教育用端末設定業務委託　6,090,700円 ・小中学校ネットワークアセスメント業務委託　1,833,370円 【地域活性化起業人】 地域活性化起業人制度を活用し、教育ＤＸアドバイザーを学校現場に派遣した。 【下田市立小中学校ＩＣＴ活用推進会議】 ＩＣＴ担当教職員の情報交換の場として設置し10月27日に会議を開催した。
検証	賀茂１市５町で構成する賀茂地域校務支援事務共同化協議会において新校務支援システムの本格運用が開始し、操作研修等を実施した。児童生徒用タブレット端末と教員用パソコンの更新を行い、ICT 環境の更新を進めた。電子黒板の入替を進め、全普通教室への更新が完了した。また、下田市教育情報セキュリティポリシーの更新を行い、情報セキュリティ対策を進めた。
今後の課題方向性	全国学力調査のオンライン化や、デジタル教材等の活用が進む中、児童生徒が安定して活用できるネットワーク環境について検証し、必要な改善策を講じる。
教育委員会評価	[S　確実な成果を出している]　A　一定の成果を出している B　やや成果が低い　C　成果が低い
評価に対するコメント	ＩＣＴの必要性が今後一層高まる中において、安定的な環境づくりとその効果的な活用により、教育活動の充実と教職員の負担軽減につなげていただきたい。

令和８年度　下田市教育委員会の点検・評価シート（令和７年度事業）

1　施策体系・事業等

施策体系	取組６　教育政策推進のための基盤整備に向けた取組		
	◇５つの取組を推進するために教育環境の基盤整備に取り組みます	○子どもの安心安全の確保と、多様なニーズに対応するセーフティーネットの構築	
事業等	スクールソーシャルワーカー・スクールカウンセラーの配置、関係機関との連携	担当	学校教育課

2　事業概要・評価等

事業概要（具体的施策）	【「チーム学校」の推進】 ・ＳＣ（スクールカウンセラー）及びＳＳＷ（スクールソーシャルワーカー）の活用 【関係機関との連携】 ・賀茂児童相談所、福祉事務所、市民保健課等との連携 ・要保護児童対策協議会及び母子連絡会での情報共有 ・下田警察署との連携
検証	ＳＣ及びＳＳＷが市内８校を巡回し、児童生徒や保護者との面談、学校への助言等を行った。児童生徒の心理面や家庭環境等を踏まえた専門的な助言を得ることで、学校だけでは対応が難しい事案について、個々の状況に応じた支援につなげることができた。また、教育委員会とＳＳＷとの定期的な連絡会を実施するとともに、ＳＣ・ＳＳＷを交えたケース会議を開催し、学校、教育委員会、賀茂児童相談所、福祉事務所、市民保健課等が児童生徒の状況や支援方針を共有することで「チーム学校」としての対応力向上を図った。 さらに、ＳＳＷには各小中学校の入学説明会等にも参加してもらい、保護者が抱える家庭環境等の課題について情報を共有するなど、児童生徒の生命や安全を守るための未然防止の取組を進めた。家庭の問題を起因とする児童相談所の案件が増加していることから、賀茂児童相談所との連絡を密にするとともに、市民保健課や福祉事務所との情報共有、要保護児童対策協議会等での情報交換を行い、児童生徒や家庭の状況把握と早期の支援につなげる取組を進めた。
今後の課題方向性	学校だけでは解決が難しい事案が増えていることから、ＳＣ・ＳＳＷを効果的に活用し、学校、教育委員会、家庭、関係機関が連携した「チーム学校」としての支援体制を一層強化する。また、ＳＣ・ＳＳＷの活動時間が限られていることを踏まえ、ケース会議や関係機関との情報共有を効果的に行い、必要な支援につなげていく。ヤングケアラー等の今日的な課題についても、関係機関と連携しながら早期把握と適切な支援に努める。
教育委員会評価	Ｓ　確実な成果を出している　　Ａ　一定の成果を出している Ｂ　やや成果が低い　　Ｃ　成果が低い
評価に対するコメント	ケース会議や関係機関との情報共有を行うことで、児童生徒や家庭が抱える課題に対して多面的に支援することができる。今後も、学校を中心に関係機関がつながり、それぞれの専門性を活かすことで子どもを支える体制の充実を図っていただきたい。

令和８年度　下田市教育委員会の点検・評価シート（令和７年度事業）

1　施策体系・事業等

施策体系	取組６　教育政策推進のための基盤整備に向けた取組		
	◇５つの取組を推進するために教育環境の基盤整備に取り組みます	○生涯にわたって学び続けることができる施設・環境の整備	
事業等	青少年海の家管理運営事業	担当	生涯学習課

2　事業概要・評価等

事業概要（具体的施策）

【青少年海の家】

施設の利用状況

施設名	令和７年度			
	使用者数			使用料収入
	市内	市外	計	
青少年海の家	298	835	1,133	18,790

【管理経費等】

・管理委託 120 千円、消防設備点検委託 99 千円

検証

青少年海の家は、施設の老朽化や耐震性を考慮し、平成 24 年４月から宿泊制限を実施している。

令和７年度は、27 件 1,133 人が使用した。市外からの教育旅行は９件となり、令和６年度の 15 件から６件減となった。

令和５年度の調査では、「文化財指定は難しいが、登録有形文化財の対象には成り得る」との結果で一定の価値がある建物だが、敷地内に相続登記されていない民地があることから、未登記の解消を進めていく。

その後の活用については、民間企業のサウンディングを実施し、活用方法を検討していく。

今後の課題方向性

未登記の解消を進めるとともに、活用方針の検討を進める。

教育委員会評価

S　確実な成果を出している　　A　一定の成果を出している

[B　やや成果が低い]　　C　成果が低い

評価に対するコメント

施設の老朽化が進む中、施設自体を今後どのように利活用していくのか、地元区の意見や民間企業の意見も踏まえながら市としての方針の検討を要する。

令和８年度　下田市教育委員会の点検・評価シート（令和７年度事業）

1　施策体系・事業等

施策体系	取組６　教育政策推進のための基盤整備に向けた取組		
	◇５つの取組を推進するために教育環境の基盤整備に取り組みます	○生涯にわたって学び続けることができる施設・環境の整備	
事業等	下田市民文化会館管理運営事業	担当	生涯学習課

2　事業概要・評価等

事業概要（具体的施策）

【貸館事業】

施設＼年度	令和７年度		
	件数	利用者数	利用料収入
大ホール	135	18,259	8,375,200
小ホール	149	12,516	
大会議室	312	13,138	
小会議室	480	4,724	
リハーサル室	253	3,895	
その他	714	5,779	
計	2,043	58,311	8,375,200

市民文化会館においては、平成18年度から指定管理者制度を導入しており、令和３年度から令和７年度までの５か年について、(公財) 下田市振興公社を指定管理者に指定していたが、持続可能な施設のあり方を検討することを目的に、令和９年度から市の直営に切り替えることとなったため、その準備期間として、令和８年度までの１年間の指定管理期間の延長を行った。

指定管理者は、多彩な自主事業を通じ、地域住民に文化・芸術体験の機会を提供しており、令和７年度はコンサートや映画上映会等、21 事業を実施し、総入場者数は 6,113 人であった。

施設は建築から 30 年以上が経過し、設備全般にわたって老朽化が顕著になっており、令和４年度から計画的な改修工事に着手している。

令和７年度は令和６年度からの繰越事業となる小ホール舞台吊物更新工事を 13,701,000 円で実施した。

検証

令和４年度からの改修工事は、本年度実施した小ホール舞台吊物更新工事で一旦終了となるが、今後も老朽化による設備等の更新が控えているため、修繕計画を策定する。また、直営化に向け振興公社職員と連携し、適切に準備を進めていく必要がある。

今後の課題方向性

施設を適切に維持管理するとともに、直営化後もサービスの質を維持できるよう、振興公社と連携し、直営化への移行に着手する。

教育委員会評価

S　確実な成果を出している　　A 一定の成果を出している

B やや成果が低い　　C　成果が低い

評価に対するコメント

今後も適切な維持管理に努めるとともに、直営化にあたっては市民や利用者に混乱を与えないよう、振興公社と綿密に調整した上で移行作業を進めてほしい。

令和８年度　下田市教育委員会の点検・評価シート（令和７年度事業）

1　施策体系・事業等

施策体系	取組６　教育政策推進のための基盤整備に向けた取組		
	◇５つの取組を推進するために教育環境の基盤整備に取り組みます	○生涯にわたって学び続けることができる施設・環境の整備	
事業等	公民館管理運営事業	担当	生涯学習課

2　事業概要・評価等

事業概要（具体的施策）

【公民館利用状況】

公民館名	令和７年度		
	件数	使用者数	使用料収入
中央公民館	1,524	14,747	575,870
稲生沢公民館	363	2,939	239,700
朝日公民館	373	9,569	50,920
計	2,260	27,255	866,490

※朝日公民館は朝日地区放課後児童クラブの使用を含む

【管理経費等】

・委託料（維持管理・その他）2,566 千円

・光熱水費　2,835 千円

・修繕料 600 千円（中央公民館トイレ修繕、朝日公民館トイレ修繕等）

検証

各公民館の生涯学習、コミュニティ活動、各種会議等の使用者は、27,255人であった。

朝日公民館と稲生沢公民館については廃止の方針であるが、廃止後の活用方針が未定であることから、令和８年度も存続することとした。

今後の課題方向性

方針に沿って統廃合を進めていく。また、存続する中央公民館の在り方については図書館との複合化と併せて検討する。

教育委員会評価

S　確実な成果を出している　　A　一定の成果を出している

[B　やや成果が低い]　　C　成果が低い

評価に対するコメント

朝日公民館と稲生沢公民館の廃止後の活用方針を早急に定める必要がある。

令和８年度　下田市教育委員会の点検・評価シート（令和７年度事業）

1　施策体系・事業等

施策体系	取組６　教育政策推進のための基盤整備に向けた取組		
	◇５つの取組を推進するために教育環境の基盤整備に取り組みます	○生涯にわたって学び続けることができる施設・環境の整備	
事業等	図書館管理運営事業	担当	生涯学習課

2　事業概要・評価等

事業概要（具体的施策）	【未来の図書館ワークショップ】 第１回（中高生対象） 日時：令和７年５月31日14時～　会場：中央公民館　大会議室 参加者：下田中学校生徒10名、下田高校生徒４名（計14名） 日本大学理工学部山中教授を講師に招き、(株) 地域まちづくり研究所の協力のもと、現図書館をはじめ、中央公民館やまちじゅう図書館を見学し、中高生の支店から、新しい図書館にどのようなものがあれば利用者が増加するか等、自由に話し合い、発表をした。 第２回（地域住民対象） 日時：令和７年８月30日14時～　会場：中央公民館　大会議室 参加者：17名 第１回と同様に山中教授を講師に招き、自分が図書館長であったらという視点で、持続可能な新しい図書館運営に求められるものについて自由なアイデアが出された。
検証	現在の図書館は、老朽化や耐震性の不足により、大地震の際には利用者の安全が確保されていない状況である。また、駐車場も狭く、車で来館するには不便な施設となっている。そこで、新しく下田市立図書館等生涯学習施設の開設を検討していく。
今後の課題方向性	従来の図書館は、本の貸出や閲覧、資料の収集・保存など「知の拠点」としての役割が主な機能であったが、これからの図書館は「知の拠点」であることに加え、人が集い、学び、交流する場所「地域の拠点」としての機能が求められている。 そこで、中央公民館の１階部分に図書館を移設し、複合施設とすることで、施設の効率的な管理と、文化・教育・市民活動活性化の相乗効果が期待できる。
教育委員会評価	S　確実な成果を出している　　A　一定の成果を出している [B　やや成果が低い]　　C　成果が低い
評価に対するコメント	市民ニーズの把握に努め、充実した施設となるよう検討してもらいたい。

６　有識者委員会

下田市教育委員会の点検・評価に対する学識経験者等による知見の活用については、令和８年10月21日に下田市教育委員会点検評価に関する有識者委員会を開催しました。

（ 敬称略 ）

役　職	氏　名	所　属
委員長	原　和秀	学校関係者（元学校長）
副委員長	猪ノ原　克巳	学校関係者（元学校長）
委員	佐野　晃一	学識経験者（公認会計士）
委員	進士　葉子	学識経験者（民生委員）

７　有識者委員会の意見

下田市教育委員会の令和７年度実績事業については、令和３年３月に策定された第二次下田市教育大綱の６つの取組に基づき、教育委員会が内部評価を行った36事業に対して点検評価を実施しました。

評価対象の36事業中、Ｓ「確実な成果を出している」と評価された事業が４事業、Ａ「一定の成果を出している」と評価された事業が29事業、Ｂ「やや成果が低い」と評価された事業が３事業、Ｃ「成果が低い」と評価された事業が０でした。

有識者委員会における点検評価に際しては、教育委員会から提出された自己点検・評価シート、令和７年度主要な施策の成果等の資料を基に、事務局からの説明、教育委員からの補足説明を受け、質疑を行いました。

「体験プログラム事業」は、「下田の豊かな自然、歴史、文化を感じながら下田を好きになる取組」として、各校が地域の特性を活かした様々な体験が実施し、児童生徒の郷土への理解促進、郷土愛の育成につながっていることから評価を「Ｓ」としました。

「小学校在り方検討会議」では校長、ＰＴＡ会長、地域代表等がそれぞれの立場から、下田市立小学校の今後の在り方について意見交換を行い、一つの「提言書」を取りまとめたことを評価「Ｓ」としました。今後はこうした意見が実行性のある教育施策につながることを期待します。

「ＧＩＧＡスクール構想の推進、小・中学校教育振興事業、賀茂地域校務事務共同化協議会」については、ＧＩＧＡ端末をはじめとする各種機器の更新、新校務支援システムの運用開始、セキュリティポリシー改訂等に取り組み、評価を「Ｓ」としましたが、校務用ネットワークが慢性的に遅い状況について、早期の改善を要望しました。

青少年海の家管理運営事業については、今後の利活用が未検討である状況等により評価を「Ｂ」としましたが、未登記解消に向けた取組は進められており、今後、令和８年度以降には利活用検討を着実に進められることを期待します。

今後も点検評価を通じ、課題に真摯に向き合い、学校、地域、市民の声を反映した事業を積極的に展開するとともに、下田市教育大綱に基づき、より効果的な教育行政の推進と教育環境の一層の充実を目指していただくことを願います。

下田市教育大綱に定める６つの取組に対する質疑応答の要旨は、次のとおりです。

【取組１　下田を感じる、味わう、好きになる取組】

○体験プログラム事業 有識者委員　全校合計で86回のプログラムを開催する等、取組が定着しているがマンネリ化しない工夫は必要。児童数が少なくなる中で刺激が足りない部分もあり、保護者には大きな集団で活動させたいという希望もある。 教育委員会　昨年度の在り方検討会議でも小規模校の魅力ある授業づくりについて意見が挙げられており、現在は一部では学校間の合同活動も取り組まれている。
○青少年健全育成事業 有識者委員　昨年度から「海の安全教室」の講座が増えた。親子漁船釣り教室も人気が高い。 教育委員会　親子漁船釣り教室等は３倍くらいの競争率。漁船は現在２隻しか出せておらず、燃料費高騰等により事業継続が難しい側面も出てきている。
○成人活動推進事業、公民館活動推進事業 有識者委員　寿大学は参加者数が減少傾向にあり、参加者の固定化も課題である。市民が幅広く参加できる講座への見直し等の意向について確認したい。 教育委員会　参加者の減少や固定化を課題として認識している。参加者アンケートを実施の上、市民全体を対象とした講座への転換や開催頻度の見直しについても検討したい。
○芸術文化振興事業 有識者委員　芸術祭については出展数は増加、入場人数は概ね同程度だった。連続講座については講師の皆さんに尽力いただいている。
○市史編さん事業、芸術文化振興事業 有識者委員　令和６年度の「B」評価から「A」評価に変更したのは市史編さんの編集作業が終了したためと理解する。吉田松陰寓寄処の入場者数について確認したい。 教育委員会　公共経営改革の一環として実施した開館日数の見直し等が減少の要因となった。史跡巡り等の事業も一旦休止としている。これまでの検証結果を踏まえ、新たな取組を検討している。
○英語力向上推進プロジェクト事業、英語検定受験推進事業、ＡＬＴ（外国語指導助手）配置 有識者委員　英語検定受験者数減少の理由を分析する必要がある。小学生の受検が増えたことが中学生の受検状況に影響している可能性がある一方、英語力向上への意欲を失わせない配慮も必要。また、玉川大学への視察研修についても参加教員数を増やしてはどうか。 教育委員会　小学生の受検状況や、検定の難易度等が中学生の受験者数に影響している可能性を認識している。視察研修の参加者拡大については今後検討していく。

【取組２　未来について思考する取組】

○未来の下田創造プロジェクト、小学校在り方検討会議 有識者委員　在り方検討会議の成果を、具体的な施策へつなげていくための取組が重要である。 教育委員会　多様な立場から意見を聴取し、提言書として取りまとめた。提言書の意見等は、令和８年度から小学校魅力化検討会議につなげていく。
○青少年活動推進事業 有識者委員　「二十歳の集い」対象者の記載を無くした点を確認したい。また、参加者が主体的に式典に関わることのできる、参加者の意向を踏まえた内容にしてほしい。 教育委員会　市外在住者も参加できることから「対象者」の定義が明確でなく、参加者のみの記載に変更した。実行委員会への参加等、主体性を高める工夫には難しさもある。

○地域人材活用、総合的な学習の時間 有識者委員　評価が令和６年度の「S」から「A」に変更になった理由を確認したい。地域人材を活用した取組は評価できるが、学校運営協議会は学校によって温度差がある。今後学校運営協議会が地域と学校の橋渡し役として、十分に機能することを期待する。 教育委員会　令和６年度は小学校全校に学校運営協議会を展開したことを評価「S」とし、令和７年度は継続して運用している点について、一定の評価「A」とした。活発に取り組んでいる学校の運営協議会の開催状況を見学にくる校長先生もおり、今後各校の協議会がより機能していくことを期待したい。

【取組３　居場所づくりに向けた取組】

○児童生徒適応指導事業・特別支援教育体制推進事業 有識者委員　各種支援に確実に取り組んでおり、評価「S」でも良いと考えるが、事業の性質上「S」評価としづらい側面もある。
○児童・生徒援護事業 特になし
○不登校等対策連絡協議会、いじめ防止への対応、生徒指導研修会、人権教育 有識者委員　いじめは、過去に遡って判明し、その時点での対応が後々影響することもある。現時点では把握していない事案も、後日もしかしたらという場合があるので、そうした意識をもって取り組んでもらいたい。
○学校公開・学校評価 有識者委員　着実な取組が見受けられるが、他地域でも様々な取組事例があるので、今後の参考としてほしい。
○青少年健全育成事業 有識者委員　キャンプ禁止区域とその取組について、また、教育委員会が主管する理由についても確認したい。 教育委員会　市内海岸沿岸は６月から 10 月までの期間、キャンプ禁止区域に指定される。例年苦情の多い地区には、職員がお盆期間に夜間巡回等の取組を実施している。青少年健全育成の事業ではあるが、現状としてキャンプをするのはほとんどが外国人であり、海水浴場担当の観光交流課と連携協力しながら対応を進めている。
○しずおか寺子屋 in 下田 有識者委員　県主催事業を市が引き継ぐこととなり、負担が増えた側面がある。 教育委員会　参加する児童生徒にとっては有益な事業であるため、定着するようにするように着実に取り組みたい。
○通学路安全対策事業 有識者委員　毎年対策が講じられているが改善すべき箇所はまだまだあるという理解でよいか。 教育委員会　伊豆縦貫自動車道整備も市内各所で進められており、関係機関と情報を共有しながら必要な対策に取り組みたい。
○児童・生徒通学費補助事業、中学生自転車安全対策 有識者委員　評価「S」は、児童生徒に対して十分な支援を行っているという理解でよいか。 教育委員会　中学生への通学補助は通学距離２ｋｍ以上を対象と、自転車利用生徒に対する補助も行っている。令和７年度は稲梓地区の生徒数減少もあり、路線バスを利用する稲生沢地区の一部生徒をスクールバス利用に変更する等、事業費削減にも取り組んだ。

○地域と連携した防災・防犯教育

有識者委員　津波警報発表時に、中学生が避難してきた市民に対応したことは、日頃の防災教育の成果として評価できる。一方、避難所運営は市や自主防災組織が主体的に担うものであり、中学生が率先して対応することを当然視しないように留意が必要。

教育委員会　ユニバーサル防災訓練は防災教育として意義が高い。避難所運営に関する課題は防災担当部局でも認識しており、今後関係機関との連携を深めていきたい。

【取組４　資質・能力を育成する取組】

○市指定研究校への支援、研修主任研修の開催、校内研修への支援

特になし

○教育資金利子補給事業、奨学奨励費交付事業

有識者委員　就学奨励金交付事業対象者について確認したい。令和６年度９名から令和７年度５名の減について理由を確認したい。

教育委員会　対象者は学校側からの推薦となるが、現状は要保護生徒が高校へ進学する場合が一定の基準になっている。実際の要望が年々減少傾向にあり、令和７年度についても予算の都合による減ではなく、対象者が５名だったことによる。

○授業づくり支援、初任者研修会の開催

特になし

【取組５　健やかな心身を育成する取組】

○小中学校児童生徒対外派遣事業補助金、部活動指導員配置事業

有識者委員　部活動地域展開について、部活動指導員報酬額が令和７年度に減少した点を確認したい。現在サーフィン部を支援する部活動指導員はサーフィン部の活動に大きく貢献してもらっており、今後も継続的に支援いただきたい。

教育委員会　指導員２名のうち１名が地域おこし協力隊の任務を終了され、令和７年度は支援員がほぼ１名体制となったため、報酬額が減額となった。現在サーフィン部を指導する部活動指導員は振興公社職員であり、令和９年度以降は市職員となることから、指導員を継続できるかどうか現在検討中である。

有識者委員　県内でも部活動地域展開が進展する自治体が見受けられるが下田市の現状を確認したい。

教育委員会　賀茂地域では指導者不足もあり、広域的な検討が必要と考えている。先進自治体でも様々な課題が表面化しており順調とは言い切れない。焦らず着実に進めていきたい。

○学校給食管理運営事業

有識者委員　調理配送等業務の受託事業者が変更になっているがその経過を確認したい。

教育委員会　委託事業者との契約期間が３年で終了し、新たにプロポーザル審査を実施した結果、新規事業者が決定した。

有識者委員　学校給食の無償化の状況について対応状況を説明してほしい。

教育委員会　小学校は令和８年度から無償化を完全実施しており、中学校は物価高騰対応臨時交付金を活用し令和８年10月から年度末まで暫定的な無償化を実施している。

有識者委員　収入未済額の減少等について新たな取組等を行ったのか確認したい。

教育委員会　新規の取組ではないが電話催告等は定期的に取り組んでいる。令和８年度からは、他自治体の事例を参考に、保護者に対して、未納があった場合には児童手当から天引きできる誓約書を書いてもらっている。

○学校体育施設開放事業、スポーツ推進事業 有識者委員　「主要な施策の成果」内の「スポーツ振興」の記載事項が点検評価書内に説明されていない点について確認したい。 教育委員会　教育的な目的よりも地域振興の側面が強い事業であったため、点検評価報告書にはあえて記載しなかった。
○下田市民スポーツセンター管理運営事業、吉佐美運動公園管理運営事業 有識者委員　スポーツセンターの管理運営等については、今後振興公社から市直営に変わるため、詳細な確認、要望等は省略する。
○スポーツ推進事業 有識者委員　他団体の主催するスポーツイベントへの教育委員会の関わりについて確認したい。 教育委員会　ボッチャ教室にはスポーツ推進委員が講師として派遣されている。また他イベント等でスポーツの指導を行っているケースもある。 有識者委員　現在スポーツと関わって活動する地域おこし協力隊の現状を確認したい。 教育委員会　令和６年度から１名が在籍し、スポーツ振興に取り組む一方、下田中学校サッカー部の指導にも支援してもらっている。令和８年度からは新たに１名が加わり、現在生涯学習課に籍を置いている。
○道徳教育の充実 有識者委員　昨年度点検評価に関する有識者会議では、道徳教育は学校側で担っているため教育委員会への評価は難しいと話したが、今回の評価について確認したい。 教育委員会　指導主事が授業改善に向けた助言等の取組を行っているため、今回も点検・評価対象にすべきと判断した。
○学校司書の配置・新刊図書の購入、学校図書館蔵書管理システム導入 有識者委員　一部の小学校で貸出冊数が減少している理由を確認したい。 教育委員会　学校司書へ確認したが、冊数減少の明確な原因は把握できなかった。該当校も貸出状況は把握しており、読書推進の取組について検討してもらっている。
○図書館管理運営事業 有識者委員　まちじゅう図書館事業については、今後設置の無い地区（朝日、浜崎、白浜、稲梓）への展開も推進していくという理解でよいか確認したい。 教育委員会　市内全域に身近に本を借りられる環境づくりを進めていきたい。最低でも各地区で１箇所はまちじゅう図書館を展開できるように取り組んでいきたい。 有識者委員　今後は病院等の参加促進にも取り組んでほしい。

【取組６　教育政策推進のための基盤整備に向けた取組】

○小・中学校管理事業	
有識者委員	今後も老朽化が進むため、緊急性や優先度を見極めながら計画的に整備する必要がある。トイレ洋式化についての今後の見通しを確認したい。
教育委員会	学校内全てのトイレ洋式化は行わず、必要な箇所のみ選定し整備を予定したい。昨年度末の再調査の結果、あと９基の改修は行う予定としている。
○ＧＩＧＡスクール構想の推進、小・中学校教育振興事業、賀茂地域校務事務共同化協議会	
有識者委員	令和６年度の評価「A」を「S」に変更した理由を確認したい。
教育委員会	令和７年度はＧＩＧＡ端末、校務用パソコン、電子黒板等の各種機器更新、新校務支援システムの運用開始、セキュリティポリシーの改訂、ＩＣＴ活用推進会議の設置等、例年以上の取組を行ったため、評価を変更した。
有識者委員	多くの取組を実施しているが校務用ネットワーク回線の遅延は従前からの課題であり、学校現場は非常に苦慮している。今後改善を要望したい。
教育委員会	令和８年９月補正にて回線サービス変更の予算を計上した。今後対応し改善を図る。
○スクールソーシャルワーカー・スクールカウンセラーの配置、関係機関との連携	
有識者委員	各関係機関と連携し、早期把握と適切な支援に努めていただきたい。
○青少年海の家管理運営事業	
有識者委員	評価「B」の理由を確認したい。
教育委員会	未登記解消に向けた取組は着実に進めているが、その後の具体的な活用方法の検討まで至っていないことから評価した。令和８年度はサウンディング等の実施により、活用方法の具体的な検討を進めていきたい。
○下田市民文化会館管理運営事業	
有識者委員	市民文化会館の管理運営等については、今後振興公社から市直営に変わるため、スポーツセンターと同様に詳細な確認、要望等は省略する。
○公民館管理運営事業	
有識者委員	評価「B」の理由は、公民館廃止の進捗状況によるものとしてよいか確認したい。
教育委員会	中央公民館１館を残し他を廃止する方針が決定しているが、現状として廃止が進められていない点から評価を行った。
○図書館管理運営事業	
有識者委員	図書館については、中央公民館への移設予定と認識しているが、評価を「B」とした理由について確認したい。
教育委員会	図書館の中央公民館移設は令和８年度に決定したが、令和７年度は「B」評価とした。図書館、公民館の複合施設として、より充実した施設となるように今後検討していきたい。

８　下田市教育委員会点検評価に関する有識者委員会設置要綱

平成21年７月27日教育委員会告示第９号

（設置）

第１条　下田市教育委員会（以下「教育委員会」という。）の権限に属する、事務・事業の管理及び執行の状況についての点検・評価を行うことで、地域の実情と住民ニーズに応じ、より効果的な教育行政の推進に資するとともに、事務・事業の管理及び執行状況についての透明性の確保と市民への説明責任を果たすため、下田市教育委員会点検評価に関する有識者委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（所掌事項）

第２条　委員会は、次に掲げる事務を所掌する。

（１）　教育委員会が実施する事務・事業の点検評価に関すること。

（２）　その他委員会が必要と認める事項

（組織）

第３条　委員会は、委員５人以内で組織する。

２　委員は、教育に関する識見を有する者のうちから教育委員会が委嘱する。

３　委員の任期は、２年とする。ただし、再任は妨げない。

４　委員に欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長及び副委員長）

第４条　委員会に委員長及び副委員長を置く。

２　委員長は、委員の互選によりこれを定める。

３　副委員長は、委員のうちから委員長が指名する者をもって充てる。

４　委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

５　副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

（会議）

第５条　委員会の会議は、委員長が招集し、委員長が会議の議長となる。

２　委員長は、必要に応じて会議に委員以外の者の出席を求め、その説明又は意見を聞くことができる。

３　委員会の会議は、原則として公開とする。

（庶務）

第６条　委員会の庶務は、教育委員会学校教育課において処理する。

（その他）

第７条　この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附　則

１　この要綱は、公示の日から施行する。

２　第３条第３項本文の規定にかかわらず、初回の委員の任期は、平成23年３月31日までとする。

令和８年度(令和７年度実績事業)
下田市教育委員会自己点検・評価報告書

発行日　令和８年11月
発　行　下田市教育委員会
〒415-8501　静岡県下田市河内101番地の１
TEL 0558-23-3929　FAX 0558-22-3910
E-Mail　s-kyoui@city.shimoda.lg.jp